

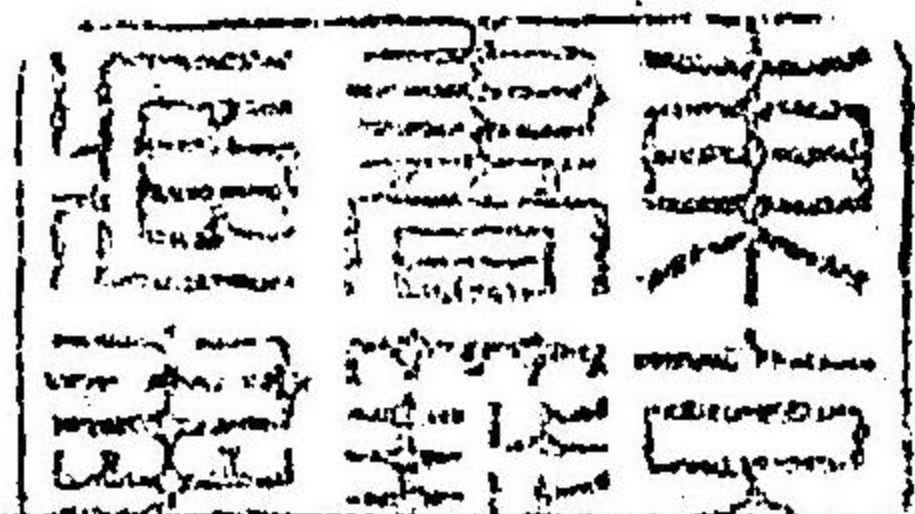
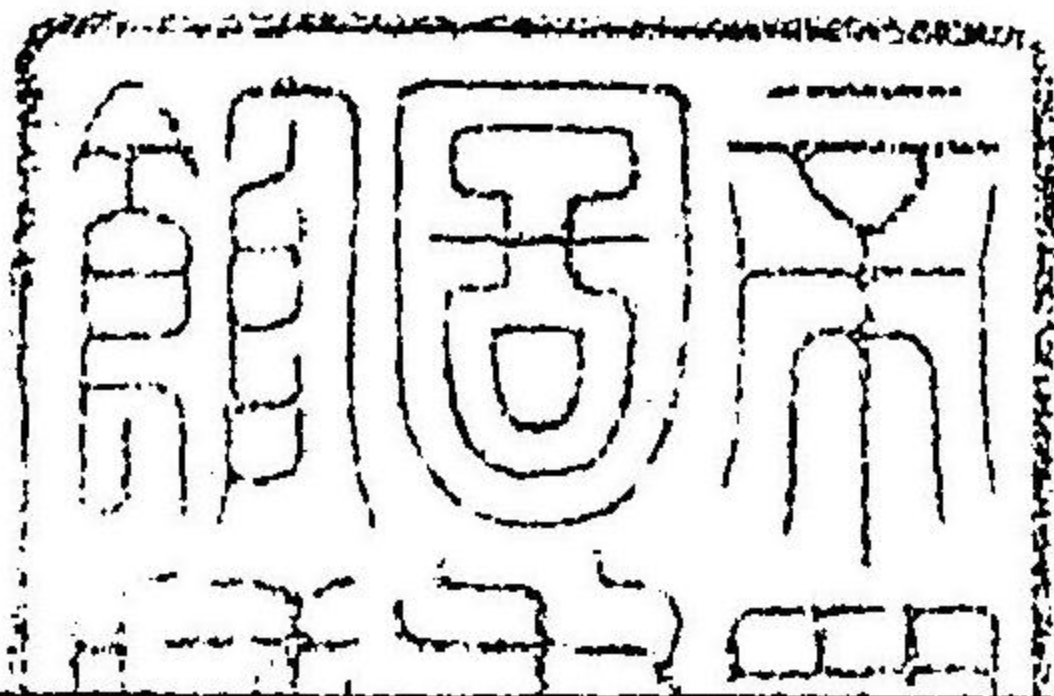
刑律明要

近藤圭造譯

下

1
5
23

東京圖書					
三册	二三号	二架	一函	屬	類



刑律明要卷三

三河 近藤圭造 抄譯

賊盜上

問擬

一ナリ強竊ヲ分ツ財ヲ得ルハ一ナリ又搶

奪ハ分ツ搶奪ハ一ナリ又白晝夜間アリ強盜ノ

中又財ヲ得ルト得ザルヲ分チ竊盜ノ中又捕ヲ

拒ムト拒マザルヲ分ツ固ヨリ未ダ一槩ニ論ズ

可ラズ強ハ器ヲ執リ兇ヲ統ベ事主ヲ制スベキ

カアリ公然トシテ、之ヲ取ル者ナリ、律ニ所謂ル、
公取トハ是ナリ、竊ハ潜行シテ、面ヲ隠シ、其人知
ザルニ乗ジテ、私ニ取ル、律ニ所謂ル、竊取トハ是
ナリ、夫盗ハ一ニシテ、公ト私ニ分ツ、搶奪トハ、人
少ニシテ、兇器ナキヲ謂フ、人多クシテ兇器アル、
之ヲ強劫ト謂フ、又其不意ニ出テ、攫デ之ヲ有ス
ルヲ搶ト曰ヒ、カラ用テ、之ヲ得ルヲ奪ト曰フ、大
約搶奪ハ、其路途、白晝人ノ見ル所ノ地ニアリ、竊
盗ハ其暮夜、人ノ見ザル所ノ地ニアリ、故ニ搶奪
ノ罪ハ、人少ニシテ、兇器ナケレバ、強盗ヨリ輕シ、

路途、白晝人ノ見ルヲ畏レザレバ、竊盜ヨリ重シ、
罪杖徒ニ止ル、賊重ケレバ、竊盜ニ加ルコト二等罪
流三千里ニ止ル、人ヲ傷スレバ、首ト為シ、斬ニ論
ジテ、監候ス、若シ路途ニ在レバ、暮夜ニ奪ヘ、亦
搶奪ヲ以テ論ジ、之ヲ竊盜ト謂フコトヲ得ザルハ、
路途ニ在テ、搶奪スルヲ重ズレバ也、夫其強盜ヨ
リ輕キ者ハ、其兇器ナキヲ以テスルノミ、強盜ノ
律、但已ニ行テ、財ヲ得レバ、首従ヲ分タズ、皆斬シ、
賊ヲ分タズト雖モ亦坐ス、若シ已ニ行ヒ、事主ニ
覺ラレ、防主守嚴ニシテ、力敵セズシテ退クハ、是

財ヲ得ザル者ナリ、罪皆杖一百、流三千里トス、夫
其始メヤ、皆屬シテ強ト為シ、罪分ツ攸アルハ、財
ヲ得ルト、財ヲ得ザルヲ重ンズレバ也、若シ既ニ
財ヲ得レバ、事主ノ財ヲ得ルト等キノミ、賊ヲ分
タズト雖モ、失財ノ事主、何ノ分別有ンヤ、故ニ皆
坐シテ斬ス、亦財ヲ得ルヲ重ンズレバ也、之ヲ響
馬ニ譬ルニ、弓矢軍器アリ、白晝財ヲ道路ニ劫セ
バ、傷ト否トニ論ナク、人數ノ多寡ヲ分タズ、梟首
シテ衆ニ示ス如シ財ヲ得ザレバ、人ヲ傷スト雖
モ、止白晝搶奪ニ依テ論ズ、亦財ヲ得ザルヲ重ン

ズレバ也、夫盜ニシテ強ナルハ、原財ヲ得ルガ為
ニス、財既ニ得ザレバ、事主ノ財、自ラ在テ、財ヲ得
ルノ念、虚ニ屬ス、末減ヲ與ヘザランヤ、盜ニシテ
竊ト云ヘバ、財ヲ得ザル者ハ、答テ刺ヲ免ス、財ヲ
得ル者ハ、一主ヲ重シトス、賊ヲ併テ罪ヲ論ズ、夫
既ニ各主通算セズ、又各分テ、已ニ入ル所ノ賊ヲ
計ラザレバ、罪杖ニ止ル、夫律ノ竊ヲ待ツハ、亦何
ゾ恕ナルヤ、蓋シ昏夜潛ニ為スハ、或ハ饑寒ノ已
ムヲ得ザルニ迫ルノミ、若シ因テ捕ヲ拒ミ、及ビ
人ヲ殺傷スル者ハ、皆斬ス、夫殺傷ハ、斬ニ論ズ、罪

固ヨリ宜キノミ、若シ止捕ヲ拒ムモ、亦重キニ依
テ論ズ、又何ゾ其嚴ナルヤ、知ラズ強ノ辟ニ擬ス
ル所以ハ、其恃ム所有テ畏ルトナキヲ以テナリ、
今其捕ニ因テ之ヲ拒ムハ、是畏ルノ心ナシ、強ト
科ヲ異ニスルヲ得ンヤ、若シ事主知覺シ、財ヲ
棄テ逃走シ、又其追逐ニ因テ始テ之ヲ拒ムヲ
行フ者ハ止罪人拒捕律論ニ依リ、其財ヲ棄テ遁
ルニ當ツテ、其心已ニ畏懼ヲ知り、事主既ニ未ダ
財ヲ失ハズ、斯モ亦已ムベシ、又從テ之ヲ追フ、彼
其擒ヲ畏テ拒サルヲ得ズ、是始終畏ルニ由レバ

ナリ、本罪ニ於テ、加等シテ杖ニ止ル、亦宜ナラズ
ヤ、嗚呼律例ノ設ケ、至嚴ニ似タリ、其事ニ據リ、情
ヲ原ルヲ觀ルニ及デ、甚ダ寬恤ヲ存ス、鴻願クハ
律ヲ用ル者、其律ヲ制スルノ初心ヲ失ハザレバ、
可ナリ、重案ノ問擬スルニ至テ、此案、何ノ處カ、輕
ク、不可キ情アル、犯ス所、何人カ、生ベキ路、寬クス
ベキ罪アル、律例ニ於テ、何ノ條カ、引テ之ト相合
ベキヲ思フベシ、全案ノ輕スベキヲ求テ得ザレ
バ、犯ス所ノ人ニ於テ、之ヲ求メ、犯ス所ノ人ニ於
テ、其生スベク、寬クスベキヲ求テ、又得ザレバ、律

例中ニ於テ、其相援引スベキ者ヲ求テ、委曲シテ、之ヲ合ス、總ジテ念念、人ヲ生カシ、人ヲ寛クスルヲ以テ要トシ、煩瑣周詳ヲ厭ザレバ、大盜ノ如キ、造謀首惡、人命ヲ殺傷シ、婦女ヲ姦淫スルノ本犯ニ於テハ、罪重ク、孽深ク、自ラ寛宥シ難シ、或ハ其餘ノ從ハ、素ト積黠ニ非ズ、稍情ヲ原ベキ者一綫ノ路ヲ求テ、之ヲ生カス、固ヨリ甚ダ盛徳ノ事ナリ、若シ時歉ニ年荒レ、寒冬歲暮、三四ノ窮餓、已ムヲ得ズシテ、孤村ヲ剽掠シ、衣食ヲ資ルハ、初ヨリ鬻指スルノ惡ナケレバ、更ニ筆底回春シ、矜ムベ

キノ典ヲ予ヘバ、仁人ノ側隱、福ヲ造ルコト、豈量リ有ランヤ、

窩主

強盜窩主ハ、律ニ載ス、凡ソ強盜窩主、造意身行ハズト雖モ、但賊ヲ分ツ者ハ、斬ス、若シ行ハズ、又賊ヲ分タザル者ハ、杖一百流三千里、夫レ窩主行ハズシテ、賊ヲ分ツモ、亦盜ニ論ズル者ハ、其造意又財ヲ得ルヲ惡メバ也、造意トハ、其主意謀ヲ起シ、強盜ヲ為スヲ謂フ、若シ行ハズ、又賊ヲ分タザルモ、亦杖流ニ擬ル者、猶ホ其造意ヲ惡ムナリ、賊ヲ

分クズト雖モ、刻ヲ行フノ謀一孰カ始タルヤ、若シ身窩主ト雖モ、只暫時停歇シテ、盗ノ情ヲ知ザル者ハ、止不應ニ問フ、其未ダ謀ヲ造マズ、又情ヲ知ラザレバ也、本條例ニ又云フ、凡ソ窩主窩藏カズ、賊ノ人犯ヲ推鞠スル、必ず造意共謀ノ實情アルヲ審ブベシ、方ニ窩主ノ律ヲ以テ、斬ニ論ズルヲ許ス、若シ勾引容留、往來住宿ニ、造意共謀ノ情狀ナキ者ハ、但窩藏ノ例ヲ以テ、發遣スベシ、文ヲ附會シ、繫シテ窩主ヲ坐スルノ罪ニ致スコトヲ得ル母レ、夫勾引容留ハ、身分贓ヲ行フノ文ナシト雖

凡情ヲ知ラズ、暫時停歇スル者ト別アルニ似ク、故ニ窩藏ヲ以テ論遣ス、之ヲ較スレバ、情ヲ知ザル者ハ、不應ノ輕重ニ問フノミ、殊ナルト莫ラシヤ、夫匪類ヲ窩藏スレバ、情ヲ知ザルト、罪重輕アリト雖モ、然レモ、造意共謀ノ者ト、大ニ異ナリ、匪類ヲ窩藏スルハ、能ク自ラ宵人ニ絶ツコトナシ、造意共謀ハ、早ク已ニ身ヲ禍ノ始メニ置ク、故ニ造意共謀ハ、罪同、辟ニ坐ス、之ヲ窩藏ノ放流ニ止ルニ較レバ、寬嚴アラズヤ、今強盜ノ窩、若シ強盜ト同ク行ヒテ、財ヲ得ルハ、竟ニ盜ト同ク論ズ、又

必シモ其窩ヲ問ハズ、若シ止窩ト為テ、同行セザレバ、造意ヲ問ハズ、窩主ト、又窩藏ノ實ヲ究スベシ、夫窩主ノ中、造意ト不造意ト、共謀ト不共謀ト、暨ビ暫時停歇ノ情ト、勾引容留ノ故ヲ分タズシテ、一概ニ強盜ト科ヲ同フス、是又大ニ律例ヲ制スル初心ヲ失ヘリ、賊盜ノ條ハ、具ニ律内ニ詳ナリ、今悉ク舉ゲ難シ、鴻特ニ其盜ト、窩ノ大端ヲ舉テ、之ヲ論ジテ、古人ノ法ヲ立ル、止人ヲ生スニ在テ、人ヲ殺スニ在ザルヲ見ル、願クハ法ヲ用ル者、能ク古人ノ人ヲ生ス、心ヲ推テ、之ヲ廣メバ幸ヒナ

ラント、盜ハ窩ニ非ザレバ、跡ヲ匿ス所ナク、且ツ窩ニ非ズシテ、又線ヲ遮スルト、謀ヲ通ズル所ナク、レバ也、故ニ窩ノ情ヲ論ズレバ、其罪盜ノ上ニ浮ベシ、是ヲ以テ人ノ窩ヲ恨ム、更ニ盜ヲ恨ムヨリ甚シ、但、盜獄ヲ鞠スルヤ、必ず窩ヲ鞠スルヲ先ンズ、盜又窩ヲ扳シテ、官ニ媚ビ、并テ捕ニ媚ブルヲ喜ブ、意謂ラク、殷實ヲ扳スレバ、稍刑掠ヲ寛フスベシト、究ニ捕役刑脣ノ為ニ、財ヲ生スルノ路ヲ、啟クニ過ザルノミ、問官盜ヲ審ベ、招認スル時ニ於テ、先ヅ諭シテ、必ず真窩ヲ供セシメ、妄ニ無辜

ヲ扱セシメズ、我若シ妄扱ノ情由ヲ審出セバ、定
 テ爾ノ腿ヲ夾デ、還夕真窩ヲ要セント、盜官ハ實
 心ニ、民ノ為ニスルコトヲ知り、自ラ敢テ妄リニ扱
 セズ、真窩ヲ供セン、然レモ官ト作ル先生、未ダ必
 ズシモ都テ菩薩ナラズ、捕後未ダ必ずシモ都テ
 行者ナラズ、若シ一差拿スレバ、此人鎖拷身ニ嬰
 ヒ、家財半費ス、果シテ真窩ニ係ラバ、猶自ラ取レ
 リ、苟シ無辜ニ屬セバ、憫ム可ラズヤ、窩ヲ審スル
 官、宜ク密ニ訊ヌベシ、既ニ供スルモ、官宜ク密ニ
 察スベシ、輕シク拿スルコト莫レ、密ニ莊地等ヲ喚

ビ、細カニ其人、素日ノ行為何如ント問フベシ、若
 シ疑フ可アラバ、莊地等ト同ク密拿シ、仍前ヲ照
 シ、具シテ並ニ槍姦等ノ弊ナキ、各甘結ヲ取り、案
 ニ存ス、若シ問テ良民ニ係リ、莊地等肯保セバ、另
 ニ安役ヲ差シ、一小票ヲ持シ、喚來テ問話セヨ、彼
 ガ心私曲無レバ、必ず挺然トシテ來リ、其詞色ヲ
 觀ルニ、安間ナレバ、其誣陷タルコト知ルベシ、又扱
 スル所ノ盜ニ、何ノ嫌疑アルト問フベシ、若シ嫌
 隙ナク、又相識ザレバ、夥盜ノ囑扱スルニ非ズ、捕
 役ノ唆教スルナリ、宜ク本盜ヲ提シテ、訊問明白

シ、定テ本盜及ビ囑拔ノ盜ヲ將テ、大板重責シ、捕
 後ハ、カカシ抄示責革スベシ、如此ニシテ、真窩例ヲ照シ
 テ、問擬スレバ、無辜コト株累スルヲ致サズ、
ザク賊ヲ起ス
 夫強盜ハ賊ヲ以テ、確據ト為スベシ、故ニ律中ニ
 云フ、審スルニ賊證明確、及ビ當時現獲ノ者アレ
 バ、例ヲ照シテ決セヨ、如シザク贓跡未ダ明カナラズ、
 招拔モウソク續緝シテ、疑似ニ涉ル者ハ、再審スルヲ妨サマグ
 ズ、良善ヲ究誣シ、辜ナクシテ大辟ニ入ルヲ恐
 ルレバ也、云フ所賊證明確ト、賊跡未明ナルト對

シ、招拔續緝ト、當時現獲ト對ス、夫レ賊ハ起獲ノ
 賊証ハ夥供ノ証、賊既ニ起獲シ、証既ニ夥供シテ、
 尚ホ明確ナラザル者アラシヤ、盜既ニ當時現獲
 スレバ、其械ヲ持シ、室ニ入ルハ、盜ニ非ズシニ何
 ズ、ニツノ者ハ不時ニ處決ス、其疑似ナケレバ也、
 若シ夫レ招拔續緝シテ、又賊跡未ダ明カナラザ
 ル良善ハ、冤誣ナキヲ保ンヤ、所謂ル疑似ニ涉ル
 者、扱スル所ノ人、已ニ真盜ニ屬シ、証スル所ノ贓
 未ダ起獲ヲ經ザルヲ以テ、又安ゾ其同夥ニ非ズ
 シテ、賊ヲ匿シテ認セザル者ヲ知ンヤ、故ニ又未

ダ敢テ遷ニ信ジテ、良民ト為サズ、証ト賊トニッノ者固ヨリ重シ、然レモ賊ヲ尤モ重シトス、証ハ同夥ノ供詞ニ出デ、賊ハ事主ノ失物ニ本ヅク、賊アリテ証ナキハ、猶ホ賊ニ據テ、罪ヲ定ムベシ、証アリテ賊ナキハ、未ダ証ニ據テ、盜ト為ス可ラズ、故ニ律又云フ、獲ルノ時、夥賊供証明白ナルモ、年久クシテ獲ルヲナク、賊モ亦花費シ、夥賊已ニ決シテ、証ナキ者ハ、俱ニ監候ノ處決ヲ引クモノハ、夥盜真ナリモ、賊ノ據ベキナキハ、亦即決ノ例ヲ照ス。コト得ズ、民命ヲ重ンジテ、疑似ヲ慎ム所以ナ

リ、故ニ問官既ニ真盜ヲ審出シ、供ニ真賊アリ、失主報單スル所ノ物タラバ、即時ニ起獲スベシ、本盜ニ其賊何ノ處ニ在ルヲ訊明スベシ、若シ其家ニ在レバ、其家ヨリ贓ヲ照シテ起獲シ、若クハ人家ニ寄頓シ、或ハ之ヲ典舖ニ質セバ、供スル人家典舖ヨリ、贓ヲ照シテ起獲シ、當官事主ヲシテ、識認セシム、原是レ失フ所ノ物ナレバ、本賊ヲ將テ小牌ヲ掛ケ、起獲スル某盜ノ賊ト註明シ、本盜ヲシテ、例ヲ照シテ供ニ畫シ、擬テ候セシム、此所謂ル賊証明確ニシテ、疑似ナキ者ナリ、夫盜ハ生命

重辟ニ關ル、安ゾ真賊ヲ以テ、汲汲タラザランヤ、
 ○事主ノ失單、劫去ノ物ヲ照シテ、實ニ據テ、開報
 シ、盜ヲ獲ルトキ、原賊ヲ起認スルニ便スベシ、若
 シ、朦朧混開シ、尙ホ真賊ヲ起獲スルハ、反テ失單
 ノナキ所ニ係ラバ、何ニ憑テ罪ヲ定ン、故ニ初報
 ノ時ニ於テ、嚴切ニ失主ヲ曉諭スベシ、
 凡ソ賊ヲ起スハ、止盜供ニ得ル所、失主ノ物ヲ照
 シテ起獲ス、捕役、贓ヲ起スヲ借テ、浴室財物ヲ搜
 搶スルヲ得ズ、甚シキハ婦女ヲ姦淫シ、盜ノ財、
 盜ノ室人、皆之ヲ取り、之ヲ辱シメテ、害ナカルベ

キ者ト為スニ至ル、律内罪ヲ擬スルハ、甚ダ嚴ナ
 ルヲ知ラズ、前ノ盜ヲ審ル、條ニ詳カナリ、夫盜ハ財ヲ劫カシ、姦
 殺スルヲ以テ、重辟ニ罹ル、捕役、身自ラ之ヲ犯サ
 バ、幾ント盜ト等シカラズヤ、失察ノ咎、誰ニ歸セ
 ン、

半ヲ獲ス

盜ハ半ヲ獲ルヲ以テ、處分ヲ免ル者ハ、朝廷盜踪
 ハ、跪秘獲難キヲ以テ、地方官ノ功名ヲ惜ム所以
 ナリ、若シ地方官半ヲ獲ルヲ以テ、盜ヲ寛クスレ
 バ、此、一半ノ盜固ヨリ已ニ網ヲ漏レ、其心胆益大

ナリ、又何ノ家カ剽劫ニ遭フヲ知ラズ、鴻以爲
 ク大案結スト雖氏、若シ夥盜後チ發覺ヲ經バ、務
 テ捕獲スベシ、其贓証ヲ審ルニ明カナラバ、首ヲ
 竿スル刑ヲ饒スモ、頭ヲ囊ニスルノ罪ヲ免レ難
 シ、大板重責枷示シテ、其連名ノ公保ヲ取り、其過
 ヲ改メ、自新收充シテ跡ヲ警シメバ、亦幸ヒナリ、
 自首
 強盜ノ自首、一定ノ律例有テ、一定ノ情ナシ、夥盜
 獲ル、是レ親是レ仇、供ノ免ザルヲ慮テ自首
 スルアリ、捕緝甚ダ嚴ニシテ、潜遁地ナク自首ス

ルアリ、本案要犯ノ爲ニ捕役既ニ擒シ、其重賄ヲ
 受ケ、因テ縱テ自首セシムルアリ、此等ハ皆自首
 シテ、一死ヲ寬センコトヲ希フ、其情ハ法ヲ詭ハル、
 人真ニ悔心アリテ、自ラ法ニ歸スル者ニ非ズ、自
 ラ例ヲ照シテ、斷ヲ予フベシ、一定ノ律例ニ於テ、
 其間ニ重輕スル所アルコト能ハズ、若シ夫レ身重
 罪ヲ犯シテ、遠ク逃レ網ヲ漏レ今成案已ニ結シ、
 夥盜皆刑セラレ、又緝捕ノ嚴ナルナク、一旦自首
 シテ來歸スル者、其盜必ズ年已ニ衰ルニ就キ、老
 テ悔ヲ知ル、或ハ家中尚ホ妻子室家祖宗墳墓ヲ

慕フアリ、故ニ寧口歸シテ、死ヲ官ニ請フノミ、
然レ氏其心亦未ダ嘗テ賢侯仁牧、憐テ寛クスル
ヲ望ザルニ非ズ、若シ強盜再犯、及ビ人ヲ殺シ、
姦ヲ行ヒ、火ヲ放ツテ、人ノ房屋ヲ燒クヲ以テス
ルハ、俱ニ自首ノ律例ニ准ゼズ、其盜此ニ一アレ
バ、必ズ重典ニ置ク、是此盜ハ罪ヲ悔ルヲ以テ、死
ニ歸シテ死ヲ得ル、彼盜ハ法ヲ詭ルヲ以テ、生ヲ
倖シテ生ヲ得ル、其輕重ノ間、又情ニ原ヒテ、法ヲ
定メザランヤ、鴻以為ク重案久ク懸リ、必ズ其人
ヲ待テ結スルモ、其年已ニ衰ニ就キ、室ニ妻子ア

ルヲ觀バ、猶曲テ矜請ヲ為シ、生命ノ恩ヲ予フベ
シ、若シ案陳ク年遠ク、其橫行不法ナルヲ、皆其少
壯ノ為ス所ニシテ、今老テ非ヲ知り、他逞ナケレ
バ、自ラ其歸意ヲ憫ミ、連名ノ公保ヲ取具シ、徑ニ
省釋ヲ行テ、餘年ヲ慰スベシ、此過ヲ悔ルヲ重シ
シテ、其已往ノ愆ヲ赦ス、或ハ亦君子ノ許ス所カ、
姦情

總論

夫姦ハ男女ノ情欲ニシテ、風俗倫常繫レリ、其乘
間濮上ハ風俗ノ貞ナラズ、墻茨新臺ハ倫常ノ玷

ル攸要スルニ教テ之ヲ前ニ化シ、刑シテ之ヲ後
ニ禁ズルニ非レバ、禮樂衣冠ノ世ヲシテ、竟ニ犬
彘禽獸ノ行ヲ成サシム、然レモ淫亂ノ風ハ、易ク
シテ褻狎ニ生ジ、禮義ノ興ルハ、遠別ヲ嚴ニスル
ニ由ル、其始メヤ在上ノ者、先ヅ之ヲ教ヘ、其男女
ヲシテ別アリ、婚姻時ヲ以テ使シム、女子十歳兄
弟ト雖モ、食スルニ器ヲ同フセズ、坐スルニ必ズ
席ヲ異ニシ、親屬男女、必ズ内外ヲ分チ、禮覲ニ非
レバ、相見ヘズ、童僕呼喚ニ非レバ、中門ニ入ル
ヲ得ズ、三姑六婆人家ニ入テ、哄誘貨賣スルヲ許

サズ、少年婦女、寺觀ニ入テ、燒香踏青シテ、遊玩ス
ルヲ得ス、里中ニ佚女私倡有レバ、方甲ヲシテ、
嚴ニ驅逐ヲ行ハシメ、桃健游蕩ノ子弟アレバ、方
甲ノ父兄ヲ率同シテ、業ヲ務ルヲ戒飾スルヲ許
ス、此ノ如クナレバ、嫌疑遠カリテ、褻狎生セズ、禮
義興テ、淫風自ラ戢ル、夫レ教ヲ立ルノ明驗ニ非
ズヤ、然レモ富貴ノ家ハ、放逸ヲ以テ邪慾ヲ生ジ、
貧賤ノ室ハ、衣食ヲ以テ廉耻ヲ喪フ、夫兇悍ノ徒、
艾色ヲ窺ヘバ、頓ニ淫心ヲ起シ、輕薄ノ流、冶容ヲ
悦バ、遽カ一名分ヲ忘ル、于是目挑心與シテ、

共ニ鴛盟ヲ篤スルアリ、此ノ如キハ、之ヲ和姦
 ト謂フ、ケシシコト賺唇ケシシコト勾ケシシコトシテ、貞ヲ毀リ節ヲ喪ハシム、此ノ
 如キハ、之ヲケシシコト姦ト謂フ、ケシシコト又ヲ挾ミケシシコト鬪ヲ排シテ強
 テ玷汚ヲ行フアリ、此ノ如キハ、之ヲ強姦ト謂
 フ、甚キハケシシコト鵲巢鳩踞ケシシコト故ラニ失畫ノ梟ト為リ、蛇ト
 龜ト盤シテ、反テ旁觀ノ驚ト作ルニ至ル、此レ其
 縱容抑勒ケシシコト取ナキノ甚キ者ナリ、然レケシシコト臣ケシシコト囊空ニシ
 テ、拒グヲ思ヒ、妬ケシシコトデ噴ケシシコトヲ生ジ、墻ヲ踰ルノ樓ヲケシシコト掘
 為シテ、其東鄰ノ招ケシシコトキヲ掩フ、是和ヲ以テ始マリ、
 強ヲ誣ルニ終ル、姦ニ至テハ一ナラズト雖ケシシコト臣、強

ト和ト二ノ者之ヲ盡ス、強ト和ト分テニツリト
 雖ケシシコト臣、犯ス所ノ人、又各凡人親屬良賤官吏ノ不同
 アリ、故ニ其罪ノ輕重亦異ナリ、夫レ朝廷刑ヲ制
 スルハ、原人ヲ犯サビルニ禁ズ、若明カニ其禁ヲ
 知テ、故ラニ刑ニ入ル、是ヲ羞耻全ク無ク、倫彝盡
 ク喪フト謂フ、ケシシコト鄉黨ノ齒セザル所、名教ノ容ザル
 所トス、顯ニシテ王誅アリ、幽ニシテ鬼罰アリ、誠
 ニ人類ヲ以テ、類スルヲ得ズ、司牧者幸ヒニ先立
 ルニ教ヲ以テシ、其ヲシテ禮ニ興テ嫌ヲ知ラシ
 メ、後之ヲ禁ズルニ刑ヲ以テシ、其ヲシテ耻ヲ知

テ犯サビラシメバ、風俗尚不貞アルモ、倫常尚不
肅アル者アラシヤ、

強姦

姦情中タミ強ノミ辟ニ擬ス、強ヲ鞫スル尤モ慎
ムベシ、不レバ人ヲ死ニ入ン所謂ル強ハ強暴ノ
状アルベシ、或ハ刀斧恐嚇シ、掙脱スル能ハザル
ノ情アリ、或ハ繩索縛シ、及ビ膚體ヲ損傷シ、衣
服毀裂スルノ屬ヒ、方ニ強ヲ以テ論ジ、絞ニ坐ス
ベシ、強ヲ以テ合ヒ、和ヲ以テ成ル者ノ若キハ、先
ニハ猶掙挫シ、喊叫シテ從ハズ、已ニ姦ヲ成スニ

及デ聽順シテ忤フコナキハ、之ヲ強ト謂フヲ得
ズ、又婦人人ト通姦シ、見ル者因テ用テ、之ヲ強姦
スルガ如キハ、已ニ姦ヲ犯スノ婦ニ係レバ、亦強
ヲ以テ論ズルコトヲ得ズ、律ニ刁姦ヲ以テスルハ
是ナリ、鴻推テ之ヲ廣ルニ、如シ娼女良人ニ從ヒ、
或ハ人ノ妻妾ト為リ、強姦有ルニ遇ヘバ、仍ホ強
律ニ依ルベシ、蓋シ其門ニ入ル、已ニ妻妾ノ名ヲ
正ス、強スル所ノ者ハ、人ノ妻妾ナリ、姦ヲ犯スノ
婦、強ヲ以テ論ズルコトヲ得ザル者ト、不同アルニ
似タリ、更ニ奸人アリ、婦ノ姿色ヲ窺ガヒ、花婆泥

姑等ニ買通シ、勾引シテ會シテ看香ヲ燒キ、或ハ
茶酒糕餅中ニ藥ヲ用テ昏迷セシメ、因テ姦汚ス
ル者ハ、恐嚇縛制ノ形ナシト雖、已ニ計誘迷蒙
ノ實アリ、之ヲ強姦ト謂ハザルヲ得ンヤ、其本犯
ハ固ヨリ強ヲ以テ擬スベシ、其勾引ノ婆尼モ亦
強姦ノ人ヲ強促スルニ照シ、未ダ成ザル者ノ律
ニ問テ、杖一百流三千里、差々其罪ニ當マシ、若シ
夫始メ故ラニ其妻妾ヲ縱シテ、人ト通姦セシメ、
久フシテ又其ヲシテ、強姦ヲ以テ擒捉セシメ、或
ハ傍ニ在テ叫喊シ、其人驚逃シテ、其衣帽ヲ遺シ、

或ハ親夫偶入り、器ヲ持シテ、姦スル所ニ擊中シ、
具控シテ官ニ到ラバ、又豈一槩ニ強ヲ以テ論ズ
可ンヤ、其夫強ヲ以テ捉ル者ハ、其斷ゼザルノ情
ヲ絶チ、並ニ其従前ノ跡ヲ掩ハント欲スル也、其
妻強ヲ以テ証スル者、既ニ夫ノ迫ルニ懼レ、又已
ガ節ヲ彰カニシ、之ニ因テ令名ヲ博クセントス、
夫衣帽ヲ遺ス、安ンゾ其攘奪スルニ非ルヲ知シ、
親夫ノ入ル、安ンゾ其潜カニ伺フ所ニ非ルヲ知
ンヤ、之ヲ以テ強ト論ズレバ、寃獄ヲ免レ難シ、即
チ姦ヲ捉ルヲ以テ論ズ、律ニ云ク、其姦所捕獲ス

ル非ザルト、及ビ姦ヲ指ス者ハ、論ズル勿レ、其姦
ヲ指スハ、外人ノ言據証ナキヲ以テ、姦ヲ以テ論
ジ難シト是ナリ、其姦所ニ捕獲スルニ非ズトハ、
必ズ兩人姦ヲ行フヲ、姦所ト為シテ、後捕獲スベ
シ、姦ヲ行フニ非レバ、體ヲ假シ唇ヲ交ルモ、亦捕
獲ヲ得ザランヤ、律ヲ查スルニ、姦夫ヲ殺死スル
條ニ、姦夫姦婦登時殺死スル者論ズル勿レ、註ニ
云フ、或ハ姦所ニ捕獲スルニ非レバ、此律ニ拘ス
ルヲ得ズ、登時殺死、勿論ノ律ニ拘スルヲ得
ズ、夫體ヲ假シ唇ヲ交ルハ、固ヨリ調戲、未ダ姦ヲ

成サバル律アリ、惟夫ノ自裁ニ聽セテ可ナリ、説
者謂フ、姦ヲ捉ル必ズ本夫姦所ニ親獲スレバ、論
姑叔伯兄弟、皆姦ヲ捉ルヲ得ズト、果シテ然ラ
バ、親夫遠出セバ、其快意ヲ恣ニスルモ、誰カ復之
ヲ問ンヤ、又姦夫ヲ殺死スル條、註ヲ查スルニ、本
夫ノ兄弟、及ビ有服ノ親屬、或ハ同居人、或ハ捕
キ人ハ、皆姦ヲ捉ルヲ許ス、其婦人ノ父母伯叔姑
兄弟外祖父母、姦ヲ捕テ姦夫ヲ殺傷スル者、本夫
ト同ジ、但卑幼尊長ヲ殺スヲ得ズ、犯セバ故殺
ノ律ニ依テ罪ヲ科シ、尊長卑幼ヲ殺セバ、服ノ輕

重ヲ照シテ、罪ヲ科スト、是又獨リ親夫ニシテ、後
姦ヲ捉フ可ノミナラズ、夫卑幼姦ヲ捉ルヲ得
ザル者、義ニ于テ、不可ナル所アレバ也、且ツ捉
テ受ザレバ、必ず殺スニ至ル、是卑幼亦尊長ヲ殺
スヲ得ルナリ、不義ニ干テ、合フカ合ハザルカ、
翁子婦ノ姦ヲ捉ル律ニ明カニ指サズ、但有服親
屬ト云テ、其明カニ指ザル者ハ、蓋シ翁婦ノ間跡
嫌疑ニ涉テ、子婦ノ姦所聞闖ニ非レバ、其遽室又
豈翁ノ至ルベキ所ナランヤ、設シ不幸ニシテ此
アレバ、亦尊長卑幼ヲ殺スノ律ニ照ス、他ノ議ナ

キニ似タリ、若シ外人或ハ捕ユベキ人ニ非ズシ
テ、殺傷スレバ、鬪殺傷ニ依テ論ズ、蓋シ外人ハ、門
外ノ人ナルヲ以テ、何ゾ直チニ姦所ニ入テ、捕ル
ト云フヲ得ンヤ、既ニ親屬ニ非ズ、又同居ニ匪レ
バ、其姦ヲ捉ルヲ得ザルハ宜ナリ、設シ其婦上
ハ尊屬ノ親ナク、其夫遠出シ、孤院獨處シテ、姦夫
往來忌フナキハ、子姪アリト雖、又亦テ卑幼ト
為シ、其淫スルヲ聽テ俗ヲ欺ンヤ、設シ鄰佑里民
惡テ之ヲ捕シ、約地ヲ率同シテ、姦所ニ親獲シ、或
ハ義忿ノ激スル所、姦夫姦婦登時殺死スルハ、夫

ノ郷約地方、勸導管理ノ責アルハ、亦之ヲ捕スベ
 キ人ト謂ベシ、殺傷アリト概シテ外人ノ闘毆律
 ニ依テ論ズルヲ得ザルニ似タリ、此ニ由テ之ヲ
 觀レバ、姦ヲ捉ルノ律、嘗テ姦夫姦婦ヨリ密ナル
 ベシ、說者又謂ラク、和姦ノ律ハ、罪杖ニ止ル、太
 輕キニ失ス、人多クハ犯シ易シト、鴻以為ク、輕キ
 ニ非ズ、男女ノ欲誰カナカラシ、犯サザル者ハ、禮
 ヲ以テ自ラ持スレバ也、若シ夫志ヲ放ニシテ、閑
 ヲ踰エ、履錯リ、寫交ルハ、皆情ヲ傳ヘ、好ヲ送ルノ
 時ナリ、儔人廣衆ハ、皆密約私期ノ地ナリ、曲謝幽

廊ハ、皆鳳友鸞諧ノ所ナリ、斯ヲ以テ律スルニ、重
 刑ヲ以テセバ、青萍素帛、執カ、紅粉檀郎、畢命ノ具
 ニ非ランヤ、故ニ古人法ヲ立ル、必ズ人情ヲ準シ、
 惟禮以テ君子ヲ矜シメ、法以テ小人ヲ治ム、禮ニ
 違ヒ法ヲ犯スハ、皆小人ノ類ナリ、蕩檢耻ナキハ、
 皆禽獸ノ行ヒナリ、和ニシテ杖ニ決スルハ、小人
 禽獸責ルニ足ザレバ也、若シ名分ヲ犯スニ、親屬
 強姦ノ如キハ、絞シ、未ダ成ザル者ハ、杖流ス、奴隸
 ノ如キハ、和ト雖、亦各絞斬ニ坐ス、又一例ヲ以
 テ、杖ニ決スルニ非ズ、凡人ノ律ニ至テ、何ヲ以テ

強姦ニ于テ、獨リ重キ、蓋シ姦ニシテ強ト云フハ、
 貞潔自守ノ女ヲ以テ、忽チ強暴ニ汚サレ、其死刑
 フ予ル者ハ、正ニ貞潔ノ操ヲ勵シ、邪淫ノ婦ヲ愧
 シム、獨リ重典ヲ強暴ニ置ノミニ非ズ、親屬ノ間
 ノ若キハ、尊卑別アリ、凡ソ強ヲ犯セバ、悉ク皆斬
 ニ論ズ、妾モ亦絞ニ論ズ、奴及ビ僮工モ亦然リ、其
 罪又未ダ凡人ヨリ輕カラズ、若シ夫レ官吏御ス
 ル所ノ妻女ニ、強姦スル者ハ、斬ス、其狹ム所ノ勢
 アレバナリ、翁ト夫兄ト欺姦スル者モ亦斬ス、卑
 幼ヲ欺凌スベキノ勢アレバナリ、由テ此觀之ニ、和

ノ罪ハ強ヨリ輕ク、亦罪強ト等キ者アリ、強ノ罪
 ハ和ヨリ重ク、亦本ト和ニシテ、強ヲ照シテ擬ス
 ル者アリ、法又姦律ヨリ嚴ナルナケレバ、人必ズ
 輕シク犯ス者ナシ、是司牧者ニ在テ、先之ヲ教ヘ、
 其犯スニ及デ、其尤モ惡ベキ者ニ于テ、必ズ之ヲ
 刑ニ入レ、赦スコト無ンバ、頽風汚俗、庶クハ其少ク
 止ンカ、律ニ云ルコトアリ、姦情確審シ、得テ實ナレ
 バ坐スト、強姦ノ跡ノ若キ、疑似ニ渉ル者頗ブ
 ル多シ、審カニ其實ヲ得テ、寬ナキヲ責ブ、之ヲ死
 ニ置クト雖、其情ト法ト兩ナカラ憾ナクシテ

可ナリ、

刁姦

刁姦ノ情ニアリ、一ハ巧言引誘シ、婦人夫ニ背テ
逃走シ、其家ヲ離テ外ニ出ル也、一ハカヲ用テ挾
制シ、迫ルニ從ザルヲ得ザルノ勢ヲ以テス、和ハ
一ト雖氏、彼此情ヲ留テ、通姦スル者ト、不同アル
ニ似タリ、蓋シ巧言引誘ハ、或ハ此貪ニシテ、彼ヲ
誘フニ富ヲ以テシ、或ハ此老醜ニシテ、彼ヲ誘ス
ルニ美少ヲ以テシ、或ハ彼粗悍ニシテ、彼ヲ誘フ
ニ溫柔ヲ以ス、婦人ハ水性揚花ナリ、焉ゾ為ニ動

サレザル有シ、貞性烈女ト雖氏、其聲ヲ聞テ、之ヲ
早く叱シテ、其ヲシテ懲避シテ、退シムルニ非ズ、
若シ言一タビ耳ニ入レバ、媿々トシテ聽ベシ、亦
自ラ禁ズル能ハザル者アラントス、鴻以為ク巧
言引誘ハ、必ズ姦夫ニ致サル、者アラン、致サル
、人ト、外ニ在テ何ノ處ニ居停スルトヲ、嚴究ス
ベシ、僅ニ杖百ヲ以テ、此兩奸ヲ律スルヲ得ズ、
カヲ用テ挾制スルニ至テハ、婦ヲ貞烈ニシテ、嚴
詞厲色ヲ以テ、拒ムニ非ザレバ、未ダ免就セザル
者アラズ、婦已ニ節ヲ失フ、律スルニ同坐ヲ以テ

セバ、孰カ宜キニ非ズト曰ンヤ、但、姦ハ挾制ニ因
テ從フ、彼兩情留眷スルニ非レバ、挾制シテ節ヲ
失シム、姦夫備ヲ作ス、法加フベキナケレ、情實
ニ惡ムベシ、官吏其部ノ妻女ニ、姦スルニ照シテ、
凡姦罪ニ二等ヲ加フベキニ似タリ、婦人ハ挾ヲ
受ケ、止凡姦ヲ以テ論ズレバ、法其罪ニ當ルニ庶
カラシ、然レ、凡愚論如此、姑ク其說ヲ存シテ、挾制
ヲ姦スル者ヲ悚ス、

鞫姦

凡ソ姦ヲ告ルニ、強ヲ以テセザル者アラズ、詳カ

ニ其狀内ノ情由ト、供スル所ノ口詞ト、虛實如何
ンヲ閱スベシ、又詳カニ其本夫本婦、詞色ノ間義
憤激切ヲ察シ、再ビ詳カニ其被告ノ兇悍、及ビ詞
色ノ沮喪ヲ觀テ、再ビ詳カニ其証佐ニ被告ノ素
行如何ン、及ビ強姦ノ確據、且ツ被姦ハ強犯何人
ニ係ルト、強犯ト被姦ノ名方ト、往來熟識ノ有無
ト、或ハ鄰、或ハ里、強姦ハ何ノ時、強姦ハ何ノ地ナ
ルト、兇器ヲ挾持スル有無ト、被姦ノ婦身體ヲ毀
傷、下衣ヲ損裂スル有無ト、姦ヲ成スノ有無ト、
喊救先ニハ高ク、後ニハ小ク、先ニハ叫ビ、後ニハ

止ムヲ訊スベシ強姦止婦言ニ係ラバ親屬聲ヲ
聞テ來見スルノ有無ト親夫拿獲スルニ或ハ逃
走シテ具告スル有無ト遺ス所衣物ト一一細鞠
セバ是強是和真情畢ク露ザルナシ何ントナレ
バ果シテ強姦ニ係ラバ狀情ノ叙スル所必ず直
切口詞ノ供スル所狀情ト必ず啗合ス若シ和ニ
シテ強ヲ以テ稱スレバ狀情必ず紐捏多ク口詞
必ず支離多ク本夫ノ詞色真ノ義憤ナラズ且ツ
掩覆ノ容多ク毎ニ其婦ヲ顧ミ惟言ノ或ハ舛
ヲ恐ル本婦面ニ羞ヲ含激ヲ負フノ態ナク且

ツ言フ斷續多シ駁詰スレバ前後參差ス強暴前
ニ當テ辨訴スルニ及デ本婦首ヲ俯シテ與ニ争
執セズ是婦ノ性モト柔ニシテ彼交情ヲ念ヒ隱
微ノ暗ニ返スルヲ覺ヘズ被告ノ如キモ貌兇悍
ニ非ズ應對明便証佐ノ供スル所又強形ヲ確指
スルヲナシ若シ和姦ニ係ラバ証佐豈知ラザル
有ランヤ庭訊ノ下明カニ言フニ未便ナリ凡口
角亦硬証シテ強ト為スヲ能ハズ強姦ニ至テハ
必シモ靜院人ナキカ或ハ荒原僻徑ニシテ方ニ
手ヲ下スベシ其從ザルヲ恐レ又必ず鋒刃ヲ挾

デ之ヲ嚇シ、彼此相搏チ、或ハ腕面傷痕ヲ帶ビ、急
 ニ姦ヲ行ハント欲セバ、必ズ下衣腰襠毀裂ス、豈
 村居白晝徑チニ其家ニ入り喧争ヲ懼レズ、寸匕
 ヲ持セズ、又體ニ搏競ノ傷ナク、衣ニ倉皇ノ裂ナ
 ク、遽カニ稱シテ、強ト為ス者有ランヤ、然レモ又兇
 徒其勁悍ヲ恃ミ、公燹ト大膽ニ強ヲ行フアリ、彼
 婦制スル能ハズ、或ハ足ヲ綁リ、口ヲ蔽フモ奈何
 セン、然レモ貞烈性成レバ、死且ツ懼レス、其口ヲ
 蔽フト雖モ、喊聲自ラ奮フ、家鄰皆隻影ナキニ非
 ザレバ、聲ヲ聞テ、往テ救ハザル者有ランヤ、往救ノ

人、自ラ其姦狀ヲ稔見シ、此ヲ以テ強ト云フ、謬リ
 ニ非ルヲ知ル如シ、但始ニシテ聲ヲ聞キ、鄰人方
 ニ且ツ竊カニ聽クニ、忽チ喧聲乍チ止ム、是強ニ
 始テ和ニ終ル者ナリ、姦夫既ニ出ルニ追テ、旋々
 追悔シ、或ハ隣已ニ喧ヲ聞ケバ、緘黙スルニ未便
 ナレバ、又強姦ノ事ヲ以テ、泣テ本夫ニ訴ヘザル
 ヲ得ズ、本夫或ハ始ハ強、終リハ和ノ情ヲ知ラズ、
 恨ヲ咬シ仇ヲ報ゼント、定テ強ヲ求テ論ズ、問官
 モ亦其時ノ情狀ヲ以テ、細ニ兩人ヲ鞠スル能ハ
 ズ、聞者モ亦始ハ喧、忽チ息ムヲ以テ、直ニ公庭ニ

白スルニ便ナラズ、然ラバ竟ニ強ヲ以テ論ズ、可
ナランカ、律強ヲ以テ合ヒ、和ヲ以テ成ルハ、猶強
ニ非ザルノ丈ヲ按ズルニ、強ヲ以テ絞ニ坐スル
ヲ得ズ、或人曰、強合和成ハ、蓋シ初次ハ強合、後ハ
和成ナルヲ謂フ、此一次ヲ指シテ、言フニ非ズト、
若シ然ラバ此ヨリ後犯スコアラバ、總テ和ヲ以
テ論ズル可ナリ、又何ノ暇アツテ、其初ノ強合ヲ
追求センヤ、古人如此、迂ナラズ、猶非強ノ三字ヲ
玩ヘバ、蓋シ其強ノ時ヲ指シテ言フ、先ニ強ヲ以
テ合ヒ、後ニ和ヲ以テ成ルハ、猶ホ強ヲ以テ論ズ

ルヲ得ズト云フガ如シ、夫和ヲ以テ成ル者ハ、古
人心ヲ誅スルノ謂ナリ、譬ヘバ婦人其強暴ニ遇
ヘバ、名節關ル所ノ如キ、彼且ツ憤シテ、身ヲ顧ミ
ズ、高聲喊叫ス、強者已ニ汚ヲ行ヘ、彼其心タミ
救者ノ來ルヲ望メ、得ズ、強者已ニ逃ルト雖、
方ニ且ツ天ヲ呼ビ、地ニ搶シ、其哭泣ノ聲ト、喊救
ノ聲ト、嘗テ中絶セズ、其婦汚ヲ受ルト雖、其貞
心移サル、浮雲ノ日月ヲ蔽フガ如シ、其皎々タ
ル者、固ヨリ自ラ在リ、和ヲ以テ成ル者、始ノ高聲
拒絶セズンバ非ズ、其汚サル、後ニ及デ、其心別

ニ移ル所有テ、喊聲遽カニ止ム、蓋シ其心已ニ之ヲ許ス、夫既ニ之ヲ許サバ、是兩ナガラ相和スルナリ、猶強ヲ以テ坐ス可シヤ、夫問官鞠シテ、其實ヲ得レバ自ラ和ヲ以テ論ズベシ、否レバ亦疑獄ヲ以テ、姑ク末減ニ從フ、此亦不辜ヲ殺スハ、寧ロ不經ニ釋スノ意ナリ、又婦人アリ、或ハ白晝昏夜房中、倏爾喊叫シテ、其夫邂逅シテ來ル者ハ、蓋シ其夫必ズ人ト仇アリ、婦ヲ以テ苦肉ノ計ヲ為ス、然ザレバ、姦夫親夫何ゾ相遇フノ巧ナルヤ、問官此等ノ獄ニ于テ、細カニ其情ヲ察セバ、真偽自得

シテ、和強立ドコロニ辨ジ、悞テ人ヲ辟ニ入ルヲ致サン、姦獄ヲ審ルハ、最モ持重ニス、獄風流ニ涉ルヲ以テ、遂ニ戲謔ノ語褻狎ノ態ヲ以テ、之ニ臨ムヲ得ズ、公堂ノ上ハ、闔州縣士民觀瞻ノ係ル所、姦情又民間風化ノ關ル所ナレバ、断シテ莊詞肅容情ヲ推シテ、研訊スベシ、稍輕浮ニ涉レバ、是風化ヲ主持スル者、適風化ヲ敗壞スル所以ナリ、慎ザラシヤ、婦人進審スル片、喚デ案前ニ近ク、低聲悄問スルヲ得ザレ、退去スル時、晴ヲ定テ目送スルヲ

得ズ、恐クハ觀者竊カニ笑ヒ、傳テ歌謠話柄ト作
サン、審語看詳ヲ出ス、俱ニ莊重ニスベシ、綺語尖
詞ヲ作シ、士民ヲシテ哂フニ浮蕩ヲ以テ、上司ヲ
シテ鄙マシメ、輕薄ト為サシムル勿レ、○姦獄ハ
タビ本婦ニ就テ審理シ、節外ニ枝ヲ生ジテ、再ビ
婦女ヲ率テ雅化ヲ傷ナフコケレ、

襍犯

田産墳山ヲ侵占ス

田産墳山、當日原買ノ文契アルヲ憑トシ、或ハ年
遠クシテ遺失スレバ、鄰田鄰山ノ四至ヲ憑トス、

田地ハ編造ニ遇ヘバ、必ず東西四至ヲ開ス、今
ノ者アルモ、至界ノ係屬スルヲ驗シテ足ン、或ハ
本人ノ田、或ハ鄰人ノ田、圖冊ヲ取テ一驗スレバ、
便ナ知ル、田界不明ナルモ、輕シク踏勘ヲ行ヒ、地
方ヲ騷擾ス可ラズ、中証親族地鄰人等ヲシテ、四
至ノ界址ヲ公勘シ、公ニ從テ處明シ、回報セシム、
如シ輸服セザレバ、然シテ後、親身單騎從テ減ジ、
公ヲ兼テ踏勘シ、彼ガ處ヨリ究明シテ、界址ヲ定
立シ、其後爭ヲ免セ、一千人等俱ニ便ニ就テ供ヲ
取ル、其往返多費ヲ免セ、踏勘ノ期某日ト定メズ、

時ニ臨テ更改シ、兩造ノ多人ヲシテ、徒勞セシム
可ラズ、馬ヲ起スノ先、一牌ヲ發シテ曉諭スベシ、
本州縣ノ飲食俱ニ自ラ備フ、兩造ノ一文ヲ費サ
ズ、跟役人等亦盤纏酒錢ヲ需索スルコトヲ許サズ、
如シ遵ザレバ、本人扭置スルヲ許シ、重究シテ貸
サスト、如此ナレバ、原差地方端ヲ借り、科斂シ清
廉ヲ玷コナシ、

婚姻

夫婚姻ハ媒妁ヲ以テ憑トス、亦媒妁スレバ實ハ
媒妁ニ非ル者アリ、聘定ヲ以テ據トス、亦聘定ス

ト雖、實ハ聘定ニ非ル者アリ、若シ皆執テ詞ト
為サバ、吾恐ハ爭端ノ自ラ起ル所ニシテ、伉儷モ
亦終ニ佳偶ニ非ズ、所謂ル媒妁ハ、兩家ノ好ヲ通
ジ、秦晉ノ盟ヲ締ビ、往復詞ヲ致ス、朝夕ニシテ、後
事ニ即ク、何ゾ其慎メルヤ、所謂ル聘定ハ、納徵ノ
禮ヲ先ンジ、羔幣ノ將フヲ陳シ、祖先ヲ告ゲ、其親
眷ヲ會シテ、後拜受ス、何ゾ其敬スルヤ、若シ夫擲
俎宴飲ノ間、片言好ヲ結ビ、傾蓋投交ノ際、腹ヲ指
シテ、姻ヲ聯ネ、或ハ卮酒ノ獻酬ヲ以テ、權ニ納采
ト為ス、或ハ坐ニ在ル賓客ヲ以テ、蹇脩ニ代ヘ、從

此各天ニ仕官シ、升沈路ヲ異ニス、其男氷洋ノ期ニ當リ、女挑夭ノ候ニ値フニ及デ、男已ニ孤貧ナルニ非レバ、女陋疾ニ嬰ル、富者貧ヲ嫌テ、毀テ易ケレバ、貧者ハ指シテ婚ヲ頼ストス、男家醜ヲ惡テ盟ヲ敗レバ、女家ハ指シテ諾ニ負クトス、詞ヲ興シ訟ヲ致シテ、各其説ヲ持ス、殊ニ知ラズ、皆父兄敬慎ヲ欠ノ過ノミ、試ミニ問ヘ、媒妁果シテ好ヲ通ズル人アリヤ、聘定果シテ羔幣ヲ將フアリヤ、百年ノ大事、豈卮酒席賓ヲ以テ、遂ニ據ト為ス可シヤ、如此類、鴻以為ク、男女ヲ召シテ、前ニ當シ

メ、親ク其情願ナリヤ否ヲ訊シ、面徇飾説ヲ為ス、母ラシム、願ハザレバ、竟ニ離ヲ断ジ、非耦不終ノ歎無ラシム、願ヘバ、竟ニ合ヲ断シテ、先ニ遵テ悔ザルノ心ヲ全フス、但女富メバ、厚ク其粧奩ヲ贈テ、窶壻ヲ資クベシ、男義ナレバ、明カニ其親迎ヲ正シテ、醜婦ニ安ンズベシ、是仁侯婉ニ之ヲ觀導スルニ在ル耳、若シ夫媒妁人アリ、聘定物アレバ、其許字スルニ當テ、已ニ百歳ノ縁ヲ成ス、豈陋貧ヲ以テ、遽ニ兩家ノ好ヲ失ンヤ、

債負

債負ハ必ズ券約ヲ以テ憑ト為ス、往來ノ手札ハ
據トスルニ足ラズ、安ゾ其見貸ト、既ニ償フテ証
ナキヲ知ランヤ、又必ズ親借親償ヲ信トセン、然
ザレバ子孫兄弟ノ屬代索ヲ為ス、又安ゾ其物償
フテ、券未ダ繳セズ、別ニ収約ヲ立テ、今已ニ存ス
ルナキヲ知ンヤ、更ニ其故紙ヲ執リ、勢ヲ他人ニ
藉リ、假ニ借約ヲ立テ、轉會シテ討ヲ取ル有ンヤ、
是張ノ冠ヲ李戴キ、請託代追ス、賢司牧豈人ノ為
メニ、刀砧ト作ル可ンヤ、若シ夫券約分明筆押據
アレバ、其息ヲ取ルコト已ニ多キヲ計リ、自ラ本ヲ

減ジテ、歸結スベシ、苟モ其本息俱ニ逋セバ、律ニ
遠年倍還ノ條アリ、定例三分ノ行息、此ニ過レバ、
違禁ニ屬ス、其餘息ヲ計リ、贓ヲ論ジテ官ニ入レ、
笞杖ニ擬ス、然シテ負フ者、實ニ貧ク、力歸結シ難
ケレバ、尤モ借人ヲ婉勸シ、餘惠ヲ留メ、福善資テ
可ナリ、○毎ニ客商貨ヲ載セ、牙ニ授スルアリ、其
奸牙客ノ良懦ヲ欺キ、售ル所ノ金ヲ以テ、他帳ニ
扯墊スルニ非レバ、侵欺シテ已ニ入レ、遠人ヲシ
テ異郷ニ羈絆シ、血本虧折セシム、詞ヲ具シテ鳴
控セバ、務テ必ズ限ヲ勒シテ嚴追シ、商ノ累ヲ甦

セヨ、庶クハ商賈感悅シ、絡繹トシテ來ラシ、
家産

父母亡故シ、兄弟分折ヲ經ザル者ハ、律ニ載ス、子
ハ妾婢ノ生ム所トイヘ、俱ニ均ク分ツテ得ル、
族黨尊長郷耆老等ニ命ジテ、遺ス所ノ産業ヲ將
テ、一冊ニ備造シ、官ニ呈シ、分テ照シテ、均派スベ
シ、如シ造冊隱漏スルハ、賄ヲ受テ、私ヲ徇フニ係
ル、族長等並ニ究ス、繼嗣ヲ承ル若キハ、律ヲ按ズ
ルニ、嫡妻年五十以上子無レバ、庶長子ヲ立ルヲ
得ル、若シ出スヲ無ンバ、先親房ニ儘ガス無レバ、

遠房及ビ同姓ヲ立ルヲ許ス、異姓ノ親子ヲ乞養
シ、及ビ遺孤ヲ收養スルヲ得ズ、已ニ本姓ニ從ヒ、
又喪制ヲ執ルヲ經ル、之ヲ去レバ、恩還カニ絶難
ク、之ヲ存ス、又律ニ于テ符セズ、其宗族必ズ起テ、
之ヲ爭フ者アリ、律ヲ按ズルニ、遺棄小兒三歲以
下異姓ト雖モ、仍ホ收養ヲ聽ス、本姓ニ從ヒ、遂ニ
立テ嗣ト為スヲ得ズ、若シ義男女婿嗣グ所ノ親
ニ悦バル、者ハ、相依倚スルヲ聽ス、仍ホ酌分
シテ、財産ヲ給ス、是異姓ノ恩養アリ、仍ホ必ズ
律ニ依テ、本宗ヲ立テ嗣ントス、財産ハ嘗テ酌給

シテ、生ヲ資ズンバアラス、亦恩義兩ナガラ、盡ス
 ノ道ナリ、又絶産豊厚ナルハ、宗人繼テ嗣タルヲ
 利シ、其嫠婦ヲ誘シテ、疎近ヲカタズ、賢能親愛ヲ
 立ルト託シ、其嗣ヲ承ルニ及デ本姓ノ父母、假ニ
 代理スルヲ名トス、暗ニ侵占ヲ行ヒ、嫠ハ貧困依
 ルベキナク、聲ヲ吞デ訴ルヲ莫ヲ致ス、司牧タル
 者、又預メ之ガ慮ヲナスベシ、嗣子ヲ喚デ當堂ニ
 至リ、其果シテ賢能何等ノ親愛ト、其本父家業素
 行良慝ヲ視察スベシ、若シ情疑ヲ可アラバ、族長
 等ヲシテ、繼嗣ノ執照一紙ヲ公立セシメテ、官長

批明スベシ、日後教訓ニ遵ハズ、孝順ナラズ、及ビ
 本生咬誘シ、財産ヲ欺騙スレバ、公ニ鳴シ、男ニ繼
 嗣ヲ立テ、仍テ宗ニ歸ラシムルヲ許シ、在事者ヲ
 シテ、押ヲ書シ、官長印ヲ用キ、繼親ニ付シ、收執セ
 シム、况ヤ律ニ繼子嗣所ノ親ニ得ザレバ、其官ニ
 告テ、別ニ立ルヲ聽スノ條アルヲヤ、若シ繼父尚
 在リ、却テ自ラ子ヲ生マバ、其家産原立ノ子ト、均
 ク分ツ、其義ニ厚薄ナケレバ也、律ニ又云フ、若シ
 親生ノ子アリ、及ビ本生ノ父母子ナク、還ント欲
 スル者ハ聽ス、本生ノ後、終ニ絶ツ可ラザレバ也、

然レ律ニ仍ホ財産ヲ與ルノ文ナシ、父母推テ之ニ予ルニ、聽テ可ナルノミ、

反叛

反叛ハ賊ノ大ナル者ナリ、何ヲ以テ律ハ盜賊ノ首ニ載テ、是編ハ禡理ノ後ニ列居スルヤ、然レ律ノ首ニ載スルハ、罪重ク、惡極リ、特ニ亂臣賊子ノ誅ヲ嚴ニスル也、是編後ニ列スル者ハ、國泰カニ民安ク、自ラホヲ斬リ、戈ヲ倒ニスルノ釁莫レバ也、今之ヲ篇ニ附シテ、聊カ觀覽ニ備フ、藥籠中ノ烏吻ノ如シ、豈倉公扁鵲樂デ用ケンヤ、之ノ後

ニスルハ、永ク用ザルノ意ヲ示ス、云、

謀反大逆

謀反ハ、國ニ利アラズ、社稷ヲ危クスルヲ謀ルノ謂ナリ、大逆ハ君ニ利アラズ、宗廟山陵宮闕ヲ毀ラフ謀ルノ謂ナリ、律ヲ按ズルニ、共謀ノ者首從ヲ分タズ、已ト未ト行皆凌遲シテ死ニ處ス、正犯祖父父子孫兄弟、及ビ同居ノ人、異姓ヲ分タズ、及ビ期親伯叔父兄弟ノ子、年十六以上老疾ヲ論ゼス、皆斬スト、夫祖父父子孫兄弟ハ五族ナリ、而モ祖母ニ及バズ、夫同居ハ各爨ノ者モ亦是ナリ、異

姓ヲ分タヌハ、外祖^ソ父^フ妻^メ父^フ女^メ婿^ム皆^ハ是^レナリ、及^ビ期^{ハク}親^ニ伯^ニ叔^ニ等^ヲ、亦^モ己^ト未^ト折^セ居^キニ限^ラズ、皆^ハ坐^シテ其^ノ孫^ニ及^ハズ、古^ノ人^ノ律^ヲ造^ル、亦^モ必^ズ説^アラシカ、律^中凌^ニ遲^ナシテ死^ニ處^スルハ、共^ニ謀^フノ正^ノ犯^ノ為^ニ言^フ、其^ノ斬^ニ論^ズル者^ハ、皆^ハ連^シ坐^スノ人^ナリ、正^ノ犯^ノ連^シ坐^ス相^去ル一^ニ殊^ニ別^ナリ、此^ハ大^ノ案^ニ遇^ヘバ、最^モ詳^シ慎^シヒン^トヲ要^ス、否^サレバ斬^ラ凌^ニ遲^ニ易^ル耳^ナラズ、正^ノ犯^ノ祖^ノ母^及ビ連^シ坐^ス期^ノ親^ノ孫^俱ニ首^ニ領^保ガ^ルル中^ニア^リ、男^{十五}以上^及ビ正^ノ犯^ノ母^女妻^妾姉^妹若^クハ子^ノ妻^妾功^臣ノ家^ニ給^付シテ、子^ノ女

ニ及^ハズ、正^ノ犯^ノ財^産ハ官^ニ入^テ連^シ坐^スノ財^産ハ與^ラズ、若^シ女^兼姉^妹ヲ許^カ嫁^シ已^ニ定^リ、其^ノ夫^ニ歸^キスレバ、已^ニ嫁^スル者^ハ問^ハズ、子^孫過^房シテ久^クニ與^ヘ、及^ビ妻^ヲ聘^シテ未^ダ成^ガル者^ハ俱^ニ追^テ坐^スセズトハ、亦^モ正^ノ犯^ヲ指^シテ言^フ、正^ノ犯^スラ坐^セズ、其^ノ餘^又知^ルマシ子^孫過^房女^已ニ許^カ嫁^シテ坐^セザレバ、子^孫ノ已^ニ僧^道トナ^リ、女^ノ尼^ト為^ルハ、亦^モ皆^ハ問^ハズ、律^ヲ玩^ブニ、奴^僕ヲ坐^シ及^スルノ文^ナシ、同^居異^姓ト律^註甚^ダ明^ニシテ、亦^モ奴^僕ノ守^テ様^ナク、或^ハ奴^僕情^ヲ知^ルニ非^レバ、亦^モ事^外ニ免^ル

トヲ得ルカ、當事尤モ慎ヲ加ヘ、犯屬ノ家口ト為シテ、一概ニ撫ヒ入ルル母レ、

謀叛

謀叛ハ、本國ニ背テ、潛ニ他國ニ從テ謀ルナリ、律ヲ按ズルニ、共謀ノ者首從ヲ分タズ皆斬ス、已ト未ト行ト、皆是ナリ、妻妾子女ハ、功臣ノ家ニ給付シテ、奴ト為ト、此斬ニシテ、凌遲ノ罪ナキヲ言ナリ、此ニハ妻妾子女奴ト為スハ、本身ニ及デ子ノ妻妾ハ、與ラザルヲ言ナリ、姉妹坐セザルハ、室ニアル姉妹ヲ謂フ、若シ許嫁已ニ定ルハ、反律ノ

條ニアリ、已ニ連坐セズ、父母祖孫兄弟分居同居ニ限ラズ、皆流ニ千里安置シ、餘ハ俱ニ坐セズ、蓋シ又上ノ謀反内坐ス所ノ同居異姓期親ヲ承テ、言フト明ケシ、坐スル所ノ條ニ在ザルト、財產官一入ルハ、亦共謀ノ者ヲ言フ、其餘ハ、謀反モ亦官ニ入ラズ、夫謀反ハ兵ヲ稱ゲ、敵ニ抗シテ來ルニ敢シ、謀叛ハ國ニ背キ、心ヲ離テ去ルニ止ル、其罪ノ輕重固ヨリ間アリ、故ニ法ヲ制スルモ、亦輕重同カラズ、當事此ヲ處スルニ、反叛ノ二字最モ分明ヲ要ス、否レバ此ヲ出シテ彼ニ入ル、其命ヲ枉

傷シ、多家ヲ寃陷スル者、安クニ歸セントスルヤ、
首告

反叛ノ律ハ、隱首ノ條ヲ重クス、凡ソ謀反シテ情
ヲ知テ、故ラニ縱シ、隱藏スル者ハ、斬シ、正犯ヲ捕
獲スル者之ニ、官ヲ授ケ、仍ホ財産ヲ全給シテ、賞
ニ充ツ知テ首告シ、官捕獲ヲ為セバ、財産ヲ給シ、
首セザル者ハ、已ト未ト行ヲ分タズ、杖一百流三
千里、未ダ行ザル親屬告捕シテ、官ニ到レバ、正犯
ト縁坐ノ人ト、俱ニ自首ヲ同フスレバ、免ス、已ニ
行ハバ、正犯免セズ、餘ハ免ス、親屬ノ首捕ニ非レ

バ、未ダ行ハズト雖、仍ホ律ニ依テ坐ス、凡ソ謀
叛ハ、情ヲ知テ、故ラニ縱シ、隱藏スル者ハ、絞ス、告
捕スル者ハ、財産ヲ全給シテ、賞ニ充ツ、是亦正犯
ノ財産ヲ指シテ言フ、已ニ行フヲ知テ首セザレ
ハ、杖一百流三千里、未ダ行ハザルヲ知テ首セザ
ルハ、杖一百徒三年、謀反ヲ首セザレバ、已行未行
皆杖流スルト同ジカラズ、若シ謀テ行ハザレバ、
首タル者ハ、絞シ、從タル者ハ、杖流ス、其亦人ニ首
セラル、ヲ指シテ言フ、首タル者絞スレバ、家口
奴ト為サズ、財産官ニ入ラザルヲ知ルベシ、律ニ

又云フ、告捕スル者ハ、犯人ノ財産ヲ賞ニ充レバ、
謀テ未ダ行ハズ、人ノ告捕スル有レバ、財産ハ官
ニ入ノズ、亦賞ニ充ントスルカ、其首告ノ人ハ共
謀情ヲ知ル者アリ、之ヲ謀ルノ親属ニアル者ア
リ、傍人ノ告捕スル者アリ、其賞否未ダ一概ニ論
ジガタキニ似タリ、之ニ附及シテ、高明ニ賞ス、

拿審

凡ソ謀反ヲ首告スレバ、密室ニ喚入レ、左右ヲ屏
去シ、先ヅ首狀ヲ取テ看ル、但恐ル郷人反叛ノ律
意ヲ諳ンゼズ、統テ謀反ト言ン、再ビ其口供ヲ訊

シテ、謀反ノ者一係ラバ、何人カ謀反ノ、何人カ意
ヲ起シテ倡首スル、何人カ同謀スル、供スル所、首
タル同謀ノ人ハ、何ノ年貌籍貫、何ノ處ニ在テ商
謀スル、黨羽器械人馬ヲ問ヒ、偽劄ヲ敬給スルハ、
何ノ日何ノ時ニ約シ、某ノ處ニ在テ、起手スルヤ、
若シ謀反已ニ行ハツ、又問フ、首タルハ何人ゾ、從
タルハ何人ゾ、人馬何ノ處ニ屯聚スルヤ、人ヲ殺
シ、鄉村ヲ搶掠スト問ベシ、若シ謀叛ヲ首スレバ、
何ノ處ト相通ズル、何ノ奸細有テ往來スル、是、何
ノ月日ゾ、是何ノ姓名ゾ、書札ト來人ヲ親見スル

カ、今現ニ何ハ處ニアリ、還タ何人ノ見証アルト
問ベシ、若シ未ダ來人ト書札ヲ見ザレバ、却テ又
如何ゾ、知道スルト一問明シ、如シ虚ナラバ、甘
坐スルノ認狀ヲ寫立シ、首人ヲ寄監シ、或ハ看守
セシム、如シ謀反未ダ行ザレバ、宜ク各的役ヲ差
シ、逐名密拿スベシ、首犯ト同謀ト官ニ到ル時供
スル所、首人ト同ク、及ビ年貌俱ニ對スレバ、逐名
弔審シ、對質スルニ異ナケレバ、立ロニ器械ヲ取
リ、并テ偽劄ヲ追ス、其餘夥黨ハ、酌量シテ拿究ス、
樵夫牧子ノ若キハ、必ズシモ窮治セズ、如シ謀反

已ニ行ヘバ、必ズ先ツ人ヲシテ密探セシメ、果シ
テ山谷ニ盤踞シ、莊村ニ屯聚スル實跡アレバ、賊
黨ノ衆多、賊勢ノ強弱ヲ酌量スベシ、寡弱制シ易
ケレバ、壯快ヲ率領シ、防營ニ協同シ、密計擒捕シ、
衆強敵シ難ケレバ、就近ノ上司ニ飛報シ、速カニ
營官ヲ調シ、兵ヲ帶テ協剿ス、但張皇シテ徧ク報
ジ、多ク官兵ヲ發シテ地方ヲ騷擾スルヲ得ズ、
後來收拾シ難シ、或ハ盜ヲ以テ論ジ、未ダ遽カニ
謀反ト稱ス可ラザルアリ、此處大ニ斟酌スベシ、
如シ叛ヲ首セバ、先ツ叛人並ニ窩藏ノ奸細ヲ密

拿シ、立口ニ書札ヲ取ルニ、果シテ實據アレバ、方
ニ甲報スベシ、若シ奸細書札俱ニ無ク、又傍人ノ
見証ナク、止首口ニ憑ルハ、尤モ叛人ノ族屬郷甲
地方人等ヲ拘集シ、素日人ト為リ、平時ノ踪跡通
ズル所ノ處ノ親朋ヲ細訊スベシ、若シ衆者保ヲ
願テ他ナケレバ、或ハ密ニ上司ニ稟シ、保候ヲ准
與シテ查奪ス、其首人仇誣ニ係レバ、律當ニ反坐
スベシ、但郷愚無知ナレバ、重懲枷示シ、發落シテ
具題ヲ免セ、若シ本官モト擔當アレバ、此等審ル
ニ果シテ虚情ナラバ、徑チニ保釋ヲ行ヒ、仍ホ首

人ヲシテ、自ラ無知妄首寬恕ヲ懇求スル認狀、或
ハ族屬郷地哀憐ノ公保ヲ立テシメ、首人ヲ重懲
シ、其反坐申究ヲ免セ、總テ地方此アラバ、地方ノ
福ヒニ非ズ、亦地方官ノ福ヒニ非ズ、平日ニアリ
テ、保甲ノ替查宜ク嚴ニスベシ、事ニ臨デ偵探ス
ルハ、宜ク確ナルベク、擒拿宜ク速ナルベク、審訊
宜ク詳細スベク、情罪宜ク酌量スベク、甲報宜ク
慎重スベキヲ要ス、惟罪ノ輕クスベキ者ハ、重ニ
入ル可ラズ、人犯ノ少クスベキ者ハ、多累ス可ラ
ズ、事ノ消弭スベキ者ハ、事有ルヲ樂ム可ラズ、每

ニ一ニノ奸邪妄リニ妖術ヲ以テ、人ヲ惑ハシ、無
頼ヲ鼓動シテ、汝ハ某ノ文ト為レ、汝ハ某ノ武ト
為レト、郷愚利害ヲ知ルヲナク、輒チ聚合シテ羣
ヲ為シ、竿ヲ揚ゲ幟ヲ立テ、嬉戲ヲ為ス、有司張皇
シテ、遽カニ反叛ト稱シ、徧ク上臺ニ報ズ、上臺ハ
報ニ據テ、一面ハ兵ヲ發シテ、戡捕シ、一面ハ疏ヲ
繕シテ、奏聞ス、擒殺ハ數人ニ過ギズ、報勦ハ已ニ
千百ニ逾エ、兵馬ノ過ル所、雞犬寧キヲナジ、况ヤ
隣賊近地ノ良民、何ゾ洗戮シテ、賊黨ト為ザラン
ヤ、地方官ニ至テ、防範早カラザルノ處分アリ、上

司ハ覺察先ンゼザルノ參罰アリ、若シ情實ヲ探
知シ、郷愚多事ナルニ過ザレバ、上司ニ密稟シ、一
ノ膽識アル州縣官、之ヲ制シテ餘アリ、其渠ハ之
ヲ撲殺シ、餘ハ之ヲ懲釋セバ、泯然トシテ跡ナク、
良ヲ安ジ、事ヲ省クノ美ト為サ、ランヤ、逆黨
私通スルニ至テ、或ハ仇人、之ニ因テ怨ヲ報ジ、或
ハ匪類、之ニ因テ詐ヲ挾ミ、徑チニ首告ヲ行フナ
リ、捕テ之ヲ訊スルニ及テ、首スル者、其偽ヲ出
シテ証トス、安ゾ能ク彼ノ國ノ人ヲ招致シテ、其
真偽ヲ質ンヤ、上司叛案ヲ以テ、重シト為シテ、遂

ニ具題シ、部議叛黨惡ムベキヲ以テ、豈輕ンク釋
 サンヤ、其人ノ身命家口已ニ化シテ、青燐野蝶ト
 為ル、如此類ハ、或ハ審ルニ仇詐ノ情由私書、是假
 ナルヲアレバ、宜ク上司ニ密稟シ、立ロニ首人ヲ
 殄シテ、無辜ヲ全フスル、亦可ナラズヤ、再ビ反逆
 ニ從フノ家有テ、財産ヲ籍没シ、姓名ノ錄冊ヲ檢
 出スルモ、印文アルニ非レバ、奸詭ノ書函未通ノ
 字諱悉ク密ニ丙丁ニ付スベシ、其保全スル者、衆
 多ナレバ、陰功ノ積ム所小ナラズ、
 家産ヲ籍没ス

反叛ヲ拿獲スルノ時、家屬ヲ將テ、郷甲地隣ニ著
 落シテ、看守セシメ、私カニ縱テ、逃逸スルヲ許サ
 ズ、審鞠スルニ反叛據アレバ、其家口男女若干人、
 同居若干人、異姓ノ同居家屬ノ外ニ在ル、其期親
 若干人ヲ問ヘ、止問明シテ、別ニ記スベシ、口供ニ
 入ル莫レ、恐クハ抹シ難シ、律ヲ按ズルニ、正犯家
 屬ヲ坐スレド、犯未ダ審明セザレバ、正從ヲ定メ
 難シ、自ラ一體ニ看守スベシ、審明ノ後、正犯ノ家
 屬ヲ查守シ、其餘ハ保釋ヲ行ヒ、久羈スルヲ母レ、
 謀反律ヲ按ズルニ、斬スベキ者、正犯ノ祖母ニ及

バズ、男年始テ十六以上ト、其十六以下ハ免坐ノ
内ナリ、奴ト為スモ、亦正犯及ビ子ノ家屬ニ係リ、
子ノ女ニ及バズ、男モ亦十五ニ始ル、其許嫁過房
ノ只ダ聘スル者、俱ニ坐セズ、謀叛ハ妻妾子女ヲ
坐シテ、奴トス、父母祖孫兄弟ヲ坐シテ流罪シ、餘
ハ俱ニ問ハズ、新例甚ダ嚴ナリ、又例ヲ查スベシ、
敢テ律ヲ執テ論ズルヲ為サズ、其之ガ為ニ寛
恤シテ、害ナカル可キ者ハ妨ケズ、綱ヲ祝スルハ、
周詳ニスベシ、家口ヲ查スル時、逐名登記スベシ、
如シ親友探望シテ、候羈スル者アレバ、審明シテ

本屬ニ著シ、領ヲ具シテ釋放シ、其坐スベキ者ハ、
正犯ノ罪定ルヲ俟テ、然シテ後、家屬ハ冊ヲ造テ
報解ス、一槩ニ俱ニ報ズルヲ得ズ、若シ家屬人多
クレバ、坐スベキ各犯ハ、謹密ノ處ヲ擇ビ、女ハ老
成ノ媒穩ニ著シ、男ハ地甲鄰後等ニ著シテ、守護
セシメ、間雜混人欺辱スルヲ許サズ、其餘ノ家屬
ハ、的保ヲ取具シ、另ニ發落ヲ候ス、其財産ハ盤查
ノ時ニ于テ、先印冊ヲ立テ、務テ僚屬ト同ク、親ク
其家ニ至リ、前後門ヲ的役ニ牢守セシメ、金銀首
飾ヲ總テ一處ニ置キ、網縮衣服總テ一處ニ置キ、

粗舊ノ衣履總テ一處ニ置キ、器皿襪物總テ一處ニ置キ、各項ノ件數ヲ點明シテ、冊ニ登スルヲ要ス、櫥櫃箱匣等ノ鎖アル者ハ、先ツ櫥櫃等ノ數ヲ冊ニ註シ、某ノ櫥ハ某ノ物件、某ノ箱ハ某ノ物件ト開點シ、仍ホ各櫥各箱内ニ一細單ヲ存シ、冊ヲ照シテ、比對明白シ、遺錯ヲ致スコ勿ルベシ、另ニ封鎖ヲ加ヘ、上行ヲ聽候シテ、或ハ官ニ入テ變賣シ、或ハ告捕ノ賞ニ充ツ、衙役ノ輩暗ニ携ヘ私ニ竊ムコヲ得ズ、田地房產生意ノ如キハ、先ツ其契券帳目ヲ收テ、查對ニ便ス、仍ホ本犯ヲシテ開報セ

シム、該圖甲隣地ニ著シテ、坐落ノ間數坵畝ヲ查明シ、冊ニ彙テ登記シ、隱漏ナキノ甘結ヲ取り、査シ畢ル後、亦該犯ノ遺漏ナキ結狀ヲ取テ、案ニ存ス、外ニ在テ謀ヲ知ルノ僕屬ニ至テハ、去向ヲ訊明シテ、關拿ス、別處ノ貨物店面ハ、本地ノ有司ニ移文シ、夥計ノ口供資本利息、並ニ現在貸店等ノ件ヲ按シテ、冊ヲ造リ、隱漏ナキノ甘結ヲ取具シ、一併ニ移覆シ、上文ヲ候テ定奪ス、
 逆産ヲ變賣ス
 襪物ノ變賣ハ、官牙ニ著シテ、估値發賣シ、限ヲ勒

シテ、價ヲ完フシ官ニ交ス、其房屋ハ該牙行總甲
 地方ニ著落シテ召賣シ、田産ハ該圖里鄰ニ著落
 シテ召買ス、但估報ノ價ハ、太ダ昂クス可ラズ、然
 レモ亦本犯原契ノ數ヲ照ス可ラズ、蓋シ年ニ遠
 近アリ、物ニ時値アリ、急ニ出脱シ難ケレバ、是自
 ラ其累ヲ貽スナリ、憲部駁増スル片、亦地瘠セ民
 貧ク、價ヲ加テ強售シ難キヲ以テ、詞ト為シ、部議
 已ニ定ルヲ俟テ、仍示ヲ出テ曉諭ス、開明スル估
 價情願ニ買フ者ハ、官ニ當テ具呈シ、上價ヲ批准
 ス、並ニ價外ニ分毫ヲ増溢セズ、官印硃票照ヲ給

シ、時ニ管業セシム、如シ買フ願人ナケレバ、田産
 ハ圖里長ニ著シテ、既實ヲ確報シテ、認買セシム、
 或ハ一人業ヲ承ケ、或ハ數人分受ス、悉ク其便ヲ
 聽ス、但端ヲ借テ勒買シ、開報ヲ混行シ、銀錢ヲ挾
 詐シテ、擾害ヲ滋ス、コトヲ許サズ、如シナキカト聞
 報シ、及ビ殷戸ヲ賄縱セバ、定テ重懲ヲ行テ追賊
 セン、庶クハ奸吏等傲ルコトヲ知テ、官物ヲ出シ鬻
 クニ易カラシム、

贓私

贓ヲ犯ス律例ハ、條多クシテ、正贓ハ惟六ノミ刑

書中ニ所謂ル六賊是ナリ、其餘ハ諸款ニ准ズルハ、附入スル者ナリ、風憲ト邊海トハ、分出スル者ナリ、衙役ノ賊ヲ犯スヨリ、過付引送ニ至リ、凡ソ賊ニ因テ罪ニ入ル者ハ、皆必ズ犯ス所ノ本贓、是何ノ色目ト定メ、焚シテ後、律ニ依テ擬断シ、數ヲ按ジテ給没ス、其中又人ノ有禄無禄ト、贓ノ併スベキト、計ルベキトヲ分別シテ、方ニ能ク定擬セシテ要ス、

六賊ヲ釋ス

一ニ曰ク、監守盜監ハ監臨ナリ、經營ノ人ヲ謂フ、

守ハ主守ナリ、經收ノ人ヲ謂フ、凡ソ經營經收及ビ時ニ臨デ差遣スル管領提調スル人員、並ニ佐貳首領官、同ク文案ニ署スル者、私カニ收ル所管スル所ノ物ヲ用ルハ、皆監守盜ナリ、庫子收頭糧長經收錢糧ノ侵欺ト、借貸ノ如キハ、俱ニ主守盜ト為ス、監放シテ給スベキ月俸銀米布絹並ニ賞給等ノ項ハ、尚未ダ給與セズ、侵尅アル者ハ、俱ニ掌守在官財物條内ノ官物當給律ヲ引キ、如シ已ニ軍人ニ給散シテ、科取シテ已ニ入レバ、因公科斂軍人錢糧賞賜律ヲ

引キ、番ニ通ジテ賭博シ、及ビ違禁ノ貨物ト、官
 ニ入ベキ贓物ト、侵匿スル者ハ、俱ニ收掌在官
 財物條内私物、當供官用守掌侵欺律ヲ引ク、
 本律ヲ按ズルニ、監守自ラ倉庫錢糧等ノ物ヲ
 盜マバ、首從ヲ分タズ、贓ヲ併テ罪ヲ論ズ、如シ
 十人節次共ニ四十兩ヲ盜マバ、各四兩ヲ分テ
 已ニ入ルモ、通算シテ一處ト作シ、十人各四十
 兩ノ罪ヲ得ルハ、皆斬ス、係褫ル犯ニ若シ十人共ニ
 五兩ヲ盜マバ、皆杖一百ノ類、三タビ犯ス者ハ、
 真絞並ニ刺字、首從皆是ナリ、○一兩以下ハ杖

八十、以下トハ兩ヨリシテ分ニ至ルナリ、此監
 守盜最モ重シ、常盜ニ較レバ一等ヲ加ヘ、竊盜
 ニ較レバ二等ヲ加フ、一兩ノ上ニ兩五錢ニ至
 レバ杖九十ト、上トハ一兩ノ外ニ出ルナリ、坐
 スルニ其ヲ重ンズルハ、微ヲ慎ズ人ノ犯サシ
 メザル所以ナリ、以下俱ニ二兩五錢ヨリ遞加
 シテ、二十五兩ニ至リ、以下五兩ヨリ加テ、三十
 兩ニ至リ、以下十兩ヨリ加テ、四十兩ニ至テ斬
 ス、褫犯徒五年、四十九兩九錢ヨリ、皆是ナリ、若
 シ五十兩ニ滿レバ、又此律ヲ用キズ、○康熙十

年ノ間、部題嗣テ後、錢糧ヲ侵盜シテ已ニ入テ、
數三百兩ニ滿レバ、斬ニ擬ス、三百兩ニ及ガレ
バ、監守自盜ヲ照シテ罪ニ擬ス、○一ニ倉ト庫
トハ宣大等、並ニ沿邊沿海ノ若キハ、監守糧草
ノ值銀二十兩以下常人ハ四十兩以上ヲ盜ム
トアレバ、俱ニ邊衛ニ發シ、永遠軍ニ充ツ、在京
ノ各衙門及ビ漕運、並ニ京通ノ六倉ニ、監守糧
草錢糧帛等值銀三十兩以上常人ハ六十兩以
上ヲ盜ムトアレバ、亦前ヲ照シ擬シテ、軍ニ充
ツ、其餘腹裏監守值銀五十兩以上常人ハ一百

兩以上ヲ盜ムトアレバ、亦前ヲ照シ擬シテ、軍
ニ充ツ、以上俱ニ律ニ依リ、賊ヲ并セ罪ヲ論ジ、
仍ホ各已ニ入ル贓ヲ計ルニ、數滿レバ、方ニ前
ヲ照シテ擬斷ス、數ニ及バザル者ハ、常ヲ照シ
テ發落ス、監守ノ律ヲ照シテ科斷ス、○又沿邊
海銀糧二百兩以上漕運錢糧三百兩糧六百石
以上ヲ侵盜スルハ、俱ニ本律ニ照シ、仍テ真犯
死罪ト為ス、監守盜ニ係レバ斬シ、常人ノ盜ハ
絞ス、奏請シテ定奪ス、○凡ソ監守盜ヲ以テ、論
ズト稱スル者、已ニ入ルノ贓ナケレバ、百兩ト

雖_レ止_レ其罪ヲ科シ、例ヲ引テ軍ニ充ル_レヲ得
ズ、

一ニ曰ク、常人ノ盜、原ト官物ニ係リ、監臨主守ノ
人ニ非シテ、取受侵欺借貸シ、及ビ擅ニ官造ノ
什物珠池内ノ珠官山内ノ樹木ヲ取ル、皆是必
シモ專ラ偷盜ナラズ、○盜庫内ノ主ニ給スル
贓物ハ、官用ニ非ズト雖_レ亦官物ヲ盜ムニ係
ル、○官物ヲ犯盜シテ盜ム時、是官物ナルヲ知
ガルハ、竊盜已ニ行テ財ヲ得ルノ律ニ依ル、○
軍人ノ錢糧ヲ支取スル、軍人現在ノ者ナレバ、

冒支ト為シ、軍人逃故スル者ナレバ、官物ヲ盜
ムトス、軍人支糧ノ票帖ヲ易買シ、倉ニ下シテ
支領スレバ、財ヲ出シテ貨買スルニ係レバ、不
應ニ問フ、○監守ト常人ト、官物ヲ盜出スルハ、
職後捕スベキ人等ニ搜得セラレ、賄ヲ受テ告
ガレバ、受財枉法ニ問フ、職後ナク捕スベキ人
ニ非レバ、知盜後分贓ニ問フ、○監守人常人ニ
通同シテ盜取スルハ、各本條ヲ照シテ論ズ、○
同ク監守スルノ人、監守盜ム所ノ物ヲ搜出シ
テ、之ヲ分テバ、監守スルノ人詐テ守ル所ノ物

ヲ取ルヲ以テ論ズ、律ヲ按ズルニ、常人倉庫錢糧等ノ物ヲ盜デ、財ヲ得ザレバ杖六十、但財ヲ得レバ首從ヲ分タズ、賊ヲ併セ罪ヲ論ジテ刺字ス、所謂ル常人ハ、但軍民ノミニ非ズ、官ニアル人、役ニシテ監守ニ係ザル亦是ナリ、○一兩以下ハ杖七十、一兩ヨリ五兩ニ至マデ杖八十、以下俱ニ五兩違加ス、杖七十ヨリ罪ヲ科シ、始ル者ハ監守ニ較レバ一等ヲ減ズ、夫レ同一ニ倉庫ニ盜デ、等ヲ減ズル者ハ、監守ヲ重ンズル所以ナリ、同一竊盜

ニシテ、一等ヲ加ル者ハ、倉庫ヲ重ンズル所以ナリ、倉庫ヲ盜ムハ、倉庫ヨリ盜出シテ方ニ坐スベシ、夫レ賊五兩ニ至レバ、始テ一等ヲ加ル者ハ、獨リ常人ニ寛ナルノミニ非ズ、正ニ監守ノ罪案ヲ甚シクスル所以ノミ、罪既ニ等ヲ減ズレバ、贓必ズ倍ニ至テ後坐ス、倘シ仍ホ二兩五錢ヲ以テ加等ト為ス、是減シテ仍ホ末減スルナリ、加レバ倍加シ、減ズレバ亦必ズ倍減ス、所謂ル犯罪累減ヲ得ルナリ、常人ノ減等ニ倍ヲ以テスルヲ觀テ、愈監守ノ罪愈嚴ナルヲ知ル、

○賊八十兩ニ至レバ絞ス、雜犯ニ係ルハ、康熙十年七月、部科臣姚ニ覆シテ題ス、常人盜四十五兩五十兩五十五兩ハ、總テ徒四年、○其監守直宿ノ人、覺察セザルヲ以テ罪ヲ科ス、律條例監守常人盜、賊二十兩以上ニ至ルハ、一個月ヲ限り、二百兩以上ハ三個月ヲ限り、果シテ能ク數ヲ盡シテ通完スレバ、本律ヲ照シテ發落ス、真犯死罪ノ者ハ、等ヲ減ジテ死ヲ免ジ、軍ニ充ツ、俱ニ一等ヲ減ズハ、如シ期ヲ過テ完クセザレバ、各本律ノ例ニ依リ、重ニ從テ定擬ス、

夫レ賊數ノ多寡ヲ照シ、時日ノ久近ヲ限り、果シテ能ク數ヲ盡シテ、通完スレバ、既ニ倉庫ノ虧ルト、加派ノ漸ヲ開クコトヲ致サズ、更ニ同爨ノ追賠ヲ累ハサズ、株連ノ苦ヲ免レシム、本盜ナレバ、固ヨリ悔心ノ萌シアリ、之ヲ親屬ニ出セバ、亦急難ノ誼ヲ見ル、概スルニ一等ヲ減ズル者ハ、自新ノ路ヲ開テ人ノ義ヲ好ム、地ニ引ク所以シ、仁ノ至リナリ、○本律ヲ照シテ發落ストハ、其例ヲ照サシルヲ明スナリ、監守邊海銀二十兩ヲ盜ム如キハ、例永戍ニ當ツ、今能ク

一月通完スレバ、仍監守ノ本律ニ照シテ、杖一百流三千里ナリ、又箋釋ヲ查スルニ、數ヲ盡シテ、通完スルノ下ニ于テ、例永成ス該キ者ノ五字アリ、例ト律トヲ分別シテ、更ニ明白ナリ、
 一ニ曰ク、枉法贓ハ人ノ財物ヲ受テ、之ガ為ニ法ヲ曲ル是ナリ、各主通算シテ全ク科シ、有禄無禄人ヲ不ツ、○如シ地方中ノ盜賊總甲里長獲住セラレ、財ヲ得テ放免スレバ、本里ノ者ハ枉法ニ問ヒ、別里ノ者ハ恐赫ニ問フ、別里ハ管スル所ノ地方ニ非ザルヲ以テナリ、○凡ソ管ス

ベキ職後恐嚇シテ、賊ヲ得ルニ係ルト雖、枉法ニ問フ者アレバ、皆枉法ニ問フ、○凡ソ財ヲ受ル者、枉法ノ罪ヲ得レバ、與ル者ハ行求ニ問ヒ、財ヲ過スル人ハ說事ニ問フ、其餘各贓錢ヲ過スル人ハ、不應ニ止ル、
 無禄人ハ一等ヲ減ズ、如シ不枉法贓ナレバ、一百二十兩一等ヲ減ジ、杖一百流二千五百里、是非レバ三流同ク一減ヲ為ス、
 律ヲ按ズルニ、有禄人枉法贓一兩以下ハ杖七十、一兩ヨリ五兩ニ至レバ杖八十、五兩ヲ以テ

遞テ加カシ、八十兩ハ真絞ス〔笞釋ハ襟〕凡ソ無祿人
 ノ罪ハ、有祿人ニ比スレバ、俱ニ一等ヲ減ズ、無
 祿人ノ如キハ枉法贓一兩以下ハ笞七十二止
 リ、不枉法贓一兩以下ハ笞七十二止ル、餘ハ類
 推スベシ、○無祿人枉法ノ如キハ〔扶同シテ聽〕
 縦スル〔一〕一百二十兩ハ絞ス〔笞釋ハ襟〕
 一ニ曰ク、不枉法贓ハ人ノ財物ヲ受ルモ、曾テ法
 ニ違ハザル是ナリ、亦有祿無祿ノ分アリ、各主
 通算シ、折半シテ罪ヲ科ス〔如シ一人十人ノ財〕
 折半ス〔一〕主ニ係ル者ハ折セズ〔如シ十人ハ各巳〕

又ニ入ルノ贓ヲ計テ論ズ首從ヲ分ツ可ラズ
 又或ハ未ダ分受セザレバ并テ之ヲ擬ス
 律ヲ按ズルニ、一兩以下ハ杖六十、無祿人ハ此
 ヲ照シテ一等ヲ減ズ、一兩ノ上一十兩ニ至レ
 バ杖七十、十六ヲ以テ遞加シテ一百二十兩以
 上ハ真絞ス、○又律ニ、無祿人不枉法一百二十
 兩ハ、罪杖一百流三千里ニ止ル、公ニ因テ料斂
 シテ、已ニ入ルガ如キハ、律稱スルニ、枉法ヲ以
 テスル者ト雖モ、接受ノ贓ト同ジカラズ、即チ
 數ニ滿ルニ至ルモ亦宜ク止ヲ行フ例ヲ引ベ
 シ、蓋シ實ハ枉ノ事ナケレバナリ、

一ニ曰ク、竊盜賊形ヲ潜メ面ヲ隠シ、人ノ財物ヲ盗ム、白日ト黑夜ヲ分ツトナク皆是ナリ、或ハ人ノ衣囊ヲ刺シテ、財物ヲ取ルハ拘摸トス、罪竊盜ニ等シ、各窩主ト造意ヲ分ツ、行テ賊ヲ分タズ、賊ヲ分テ行ザルハ律例引擬ス、強盜財ヲ得ル若キハ劫殺ニ屬ス、賊ヲ以テ斷ヲ為スヲ待タズ、○竊盜等ノ犯ハ皆刺字ス、若シ先ヅ竊盜ヲ犯セバ、右臂已ニ刺ス、又拘摸ヲ犯セバ、右臂再刺ス、左ヲ刺ス、得ザレバ、必ズ重テ竊ヲ犯シテ方ニ換テ左ニ刺ス、諸賊刺字スベ

キ者皆此ノ如シ、
 一ニ曰ク、坐賊正條ヲ除クノ外、新任新役所部所屬ノ拜見銀兩ヲ受ケ、及ビ諸色ノ人貢故ナクシテ人ノ餽送ヲ受ルガ如キ、如クハ傷ヲ受ル醫藥ノ外、偷カニ財物ヲ損シテ賠償スルノ外、多ク取ル所アリ、或ハ公ニ因テ科歛スルモ、賍已ニ入ルニ非ズ、或ハ虚費ヲ造坐スル皆是ナリ、其土宜ヲ送受スル者ハ共主通算シ、半ヲ折シテ罪ヲ科スルニ論ズルヲ勿レ、○若シ取テ受ル者ハ、財物土宜ヲ分タズ、俱ニ求索ト為ス、

律ヲ按ズルニ、凡ソ官吏人等枉法不枉法ノ事
 ニ因テ、人ノ財ヲ受ルニ非ザル、坐贓致罪ノ各
 主ハ通算シ、折半シテ罪ヲ科ス、與ル者ハ五等
 ヲ減ズ、○官吏ノ坐贓已ニ入ラザル者ノ若キ
 ハ、擬シテ職役ヲ還ス、○舊例一主全ク科スル
 ノ誣アリ、今見ニ行フ事例ハ、一槩ニ折半シテ
 罪ヲ科ス、○新官任ニ到テ、里長ノ拜見ヲ受ル
 ハ此條ヲ以テ科ス、若シ是長里自ラ科ヲ行テ
 來ル者ハ、公ニ因テ、人ノ財物ヲ科斂シテ、餽送
 スルニ依ル、

律ヲ按ズルニ、坐贓一兩以下ハ笞二十、一兩コ
 リ十兩ニ至リ笞三十、十兩毎ニ一等ヲ加フ、四
 十兩ハ杖六十、八十兩ハ四十兩ニ折シ、杖六十
 ナルベシ、○公ニ因テ科斂スル條内ニ贓重キ
 者坐贓ス、○科斂八十兩ニ至ルノ上ヨリハ、方
 ニ坐贓ヲ照シ、罪ヲ致シテ擬斷ス、八十兩ハ杖
 一百ニ止ル、二十兩ヲ加ルハ、徒ニ入り、一百兩
 毎ニ一等ヲ加フ、五百兩ニ至テ、罪杖一百徒三
 年ニ止ル、坐贓ハ實贓ニ非ルヲ以テナリ、

引律科斷訣

六贓監守共常人盜取官家米物銀枉法竊盜不
 枉法坐贓科罪重不輕
 監守兩下杖八十二兩五錢各遞增二十兩流二
 千里四十襍犯實非真
 常人兩下杖七十五兩一等遞相加五十五兩三
 千里八十雜絞罪無差
 枉法起算照常人俱于有祿絞為真若為無祿通
 從減百二纜科真絞刑
 竊盜得財杖六十每逢十兩遞加增贓盈百兩三
 千里以上三犯俱絞真

不枉法贓如竊盜為因有祿成同調若為無祿不
 其然罪止于流無死道
 坐贓兩下笞二十每逢十兩遞加之一百兩外以
 百論罪止于徒當得知
 犯贓ノ人犯ヲ審ベ証アル者ハ必ズ數ヲ盡シテ
 審出ス然レモ亦供スル所ヲ照シテ止ム必シモ
 多方ニ羅織セズ贓上ニ解スト雖モ追スレバ仍
 地方官ニ著ス若シ本犯完キテ能ハザレバ未ダ
 親屬ニ株及シテ索清結シ難キヲ致スヲ免レ
 ズ○引送ノ人見付過付情罪懸カニ遠シ見付ハ

彼レ此ヲ詐リ、情已ニ定ルモ、但財ヲ付スル時彼
 ニ在テ看見ス、局中局外罪出入スベシ、過付ノ若
 キハ身此中ニ于テ説合シ、線索實ニ其手ニアリ、
 罪贓ヲ受ルノ人ヨリ重キ者アリ、別タズンバア
 ル可ラズ、若シ説合スルニ非レバ、曾テ手ヲ經ル
 モ亦當ニ入ルニ見付ノ字樣ヲ以テシテ、一面ヲ
 開クベシ、○過付ノ人得ベキノ贓アリ、亦其已
 ニ入ルヲ問テ、之ヲ豁スル路アラシク要ス、
 本犯ノ贓盡ク完クシ難シ、堪ザル房屋ヲ將テ高
 價告買スル者、遠年不明ノ債負ヲ開報シテ、追償

スル者アリ、官長惟贓ヲ完スルヲ利シ、因テ拘買
 催追ヲ與フ、彼ノ人ニ告ゲ私カニ銀錢ヲ與へ、彼
 レ又另ニ他人ニ告テ承買ス、另ニ人ノ子弟ヲ借
 テ、代償スルヲ報ジ、展轉詐騙究ルニ公事ヲ假
 テ私肥ヲ濟ス如此、者輕シク准ス可ラズ、房産ノ
 官牙家屬ニ著シテ、時ニ從テ估値シ、主ヲ召テ承
 買セシメ、債負ハ親筆ニ券押スバシ、歸償ヲ與フ
 ベキ者ハ、方ニ准シテ原中等ニ著シテ、酌處シ清
 還セシム、否ザレバ害ヲ受テ甘ンセズ、上司ニ告
 理セバ、才名ヲ損スルヲ有シ、○凡ソ贓私審定シ、

申詳批追スル者ハ、該承ヲシテ另ニ一簿ヲ置カ
シメ、限ヲ立テ比較シ、或ハ陸續完結セバ、一一填
註スベシ、若シ催提ヲ奉セバ、已ニ追完スルノ數
目ヲ將テ報明ス、全ク追スルヲ俟テ、批ヲ具シテ
一併ニ起解セヨ、批ヲ獲バ案ニ存シテ、拖沓ノ愆
ヲ免ス、凡ソ衙役人ニ呈告セラレ、別處ニ批發シ、
審テ贓私アレバ、本官失察ノ處カアリ、若シ前任
ニ係ラバ、今任ニ于テ涉ルナシ、若シ本任ニ係
ラバ、事ノ先ニ查シテ責革シ、案ヲ立テ斡旋ニ便
スベシ、若シ差票ノ索詐ニ係リ、少ナレバ指シテ

飯食驢脚ノ資ト為シ、猶ホ開釋スベシ、多ケレバ
本官ニ于テ大ニ便ナラズ、故ニ公事ヲ勾攝スル
毎ニ事ノ大小ニ論ナク、凡ソ投倒ノ時ニ干テ、必
ズ原差ヲシテ有無需索結狀ヲ具セシム、ナケレ
バ案ニ存ス、有レバ重處追革ス、庶タハ事後ノ累
ヒヲ免レン、

1
3
23

刑律明要卷三終

明治十年九月廿六日御届

價八十五錢

譯者

東京府平民

近藤圭造

第六大區一小區深川富岡
門前町七十番地

大阪府平民

出版人

前川善兵衛

第一大區七小區南久寶寺町
四丁目二十五番地

